

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの仕組み I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1 部
4. 対象学年・対象学期	第 1 学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	和栗 聡
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	人体を構成する細胞・組織・器官の基礎を理解する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	事前に教科書の該当ページを読んでくること
11. 教科書	「解剖学」 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	「人体解剖パーフェクト事典」 伊藤正裕・中村陽一監修 ナツメ社
13. 推薦参考図書	「系統看護学講座 解剖生理学」 医学書院

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	解剖学概論	解剖学と解剖学用語（p1-3）
2	人体の区分-1	頭部・胸部・腹部（p17-19）
3	人体の区分-2	背部・会陰部・上肢・下肢（p19-20）
4	細胞-1	細胞膜・核・細胞質（p1-p8）
5	細胞-2	細胞周期・細胞分裂（p8）
6		前半の復習
7	確認テスト	前期確認テスト
8	組織-1	確認テスト解説、上皮・支持組織・軟骨（p8-10）
9	組織-2	骨・血液（p10-13）
10	組織-3	筋組織（p13-14）
11	組織-4	神経組織（p217-p220）
12	発生-1	初期発生（p14-16）
13	発生-2	器官発生（p16-17）
14		後半の復習
15	振返授業	期末試験対策 1
16	振返授業	期末試験対策 2
17	期末試験	前期期末試験
18	振返授業	期末試験解説
19	振返授業	発展学習（国家試験レベル）
20	振返授業	総復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの仕組みⅡ
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部1組・1部2組
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	足立和隆
7. 授業形式	パワーポイントや教科書を利用、さらに板書し、適宜プリントも配布し説明する。
8. 授業の目標	骨の組成、構造、発生と機能を説明できる。人体の骨格すべての名称を覚え、関節の構造を理解し、当該科目に関連する国家試験問題について75%以上正答できる。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	骨や関節に関して多くの用語を暗記しなくてはならないが、日常生活でも機会あるごとにこれらを暗記するように心がけよう(何かに関連づけて覚えると良い)。
11. 教科書	『解剖学 第2版』全国柔道整復学校協会監修 岸清 石塚寛編 医歯薬出版
12. 副読本	『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系』第4版 坂井建雄 医学書院
13. 推薦参考図書	『よくわかる筋の機能解剖』足立和隆 メディカルサイエンスインターナショナル

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	骨格系総論	骨の数、骨の役割、骨の形状による分類
2	骨格系総論	骨の構造（骨基質と細胞成分）、骨層板の構造、骨の力学的構築
3	骨格系総論	人体の運動における呼称（運動の形、関節運動の表示）
4	骨格系総論	骨の連結の分類、関節の基本構造、関節の補助装置、関節の分類
5	骨格系各論	体幹の骨格（脊柱）：椎骨の数、椎骨の基本形態、頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨
6	骨格系各論	体幹の骨格（脊柱）：脊柱の靱帯、椎間円板、椎間関節、脊柱の弯曲
7	前期確認テスト	前期確認テスト
8	骨格系各論	体幹の骨格（胸郭）、頭蓋骨、上肢帯の骨
9	骨格系各論	上肢の骨（1）
10	骨格系各論	上肢の骨（2）
11	骨格系各論	下肢の骨（骨盤）
12	骨格系各論	下肢の骨（1）
13	骨格系各論	下肢の骨（2）
14	骨格系まとめ	骨格系の復習
15	振返授業	骨格系の復習
16		前期期末試験
17	振返授業	骨格系に関する問題に挑戦（1）
18	振返授業	骨格系に関する問題に挑戦（2）（国家試験レベル）
19	振返授業	神経系の基礎、脳神経（1）
20	振返授業	脳神経（2）

2026度 講義計画書（後期）

1. 科目名	からだの仕組みⅢ
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	足立 和隆
7. 授業形式	教科書に沿って、スライドや板書しながら説明するとともにプリント課題によって知識の定着を図る。
8. 授業の目標	骨格筋の構造と役割を理解する。また、筋の起始・付着を理解し、それに伴った関節の動きと筋への神経支配についても覚える。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	人のからだの仕組みを正しく学び、理解する学問は「解剖学」と呼ばれ、医学の基礎である。この十分な知識があって初めて人の治療にあたることができる。毎回の講義前には、教科書を用いた予習をすることが望ましい。
11. 教科書	「解剖学 第2版」岸 清・石塚 寛編 医歯薬出版
12. 副読本	「ネッター解剖学アトラス 第5版」F. H. Netter著 相磯 貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第3版」坂井 建雄・松村 譲児監訳 医学書院

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	身体運動の用語	身体を動かす原動力、姿勢、基準面、基準軸、身体運動の用語
2	筋系総論(1)	筋の種類、筋の形による分類、筋の構造と収縮の仕組み、筋の起始・停止
3	筋系総論(2)	筋繊維の種類、運動単位、神経支配比、筋収縮の種類、筋紡錘
4	筋系各論(上肢帯)	上肢帯の運動に関与する筋と上肢帯の運動
5	筋系各論(肩関節，肘関節)	肩関節と肘関節の運動に関与する筋と肩関節の運動(回旋腱板)
6	筋系各論(手関節と手指)1	手関節と手指の運動に関与する筋、手の外来筋
7	筋系各論(手関節と手指)2	手関節と手指の運動に関与する筋、手の内在筋
8	確認テスト	
9	筋系各論(体幹の筋)	呼吸筋・胸郭の筋・腹筋・脊柱の筋
10	筋系各論(股関節)	股関節の運動に関与する筋と股関節の運動
11	筋系各論(膝関節)	膝関節の運動に関与する筋と膝関節の運動
12	筋系各論(足関節と足趾)1	足関節と足趾の運動に関与する筋、足の外来筋
13	筋系各論(足関節と足趾)2	足関節と足趾の運動に関与する筋、足の内在筋
14	筋骨格系総復習	
15	振返授業	復習
16	振返授業	復習
17		後期期末試験
18	振返授業	復習
19	振返授業	復習
20	振返授業	復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの働き I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	天貝裕地
7. 授業形式	講義 タブレットPC・プロジェクタ使用
8. 授業の目標	生理学は正常な体の機能を理解するために欠かせない基礎的学問です。本科目は体を構成する様々な器官の働きを確実に理解することを目指します。 目標：専門基礎分野の『生理学』の神経、筋に関し十分な知識を習得する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の教科書をよく読むこと。不明な点があればすぐに質問し、その場で理解するように努めること。復習を怠らないこと。
11. 教科書	『生理学』改訂第4版 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	1章 生理学とは	生理学とは
2	1章 生理学とは	細胞の構造と機能（細胞膜・核）
3	1章 生理学とは	細胞の構造と機能（染色体と遺伝・細胞内小器官） 組織・器官と生体の機能系（組織・器官系・その他）
4	1章 生理学とは	生体の恒常性と統合機能（生体の恒常性・フィードバック） 体液の区分と組成（区分と水バランス・イオン組成）
5	3章 神経の生理	神経信号の伝達（神経系の構成要素・静止膜電位・活動電位）
6	3章 神経の生理	神経信号の伝達（シナプスにおける興奮伝達・神経伝達物質と受容体）
7	3章 神経の生理	神経系の構成（中枢神経系・末梢神経系） 脳の高次機能（脳の構造・大脳皮質の機能局在・連合野）
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9	3章 神経の生理	脳の高次機能（睡眠と覚醒・脳波でみる睡眠・学習と記憶）
10	3章 神経の生理	内臓機能の調節（自律神経とは・交感神経と副交感神経・構成）
11	3章 神経の生理	内臓機能の調節（自律神経系による調節・反射のレベル）
12	2章 筋肉の生理	骨格筋（骨格筋の構造・骨格筋の収縮と弛緩）
13	2章 筋肉の生理	骨格筋（骨格筋と張力の関係・筋電図）
14	2章 筋肉の生理	心 筋（心筋の構造・心筋の性質） 平滑筋（平滑筋の構造・平滑筋の性質）
15	振返授業	総復習
16	振返授業	総復習
17	振返授業	総復習
18		前期期末試験
19	振返授業	前期期末試験の解説
20	振返授業	総復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	からだの働きⅡ
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	天貝 裕地
7. 授業形式	講義 タブレットP C・プロジェクター使用
8. 授業の目標	ねらい 生理学は正常な体の機能を理解するために欠かせない基礎的学問です。本科目は体を構成する様々な器官の働きを確実に理解することを目指します。 到達目標 基礎分野の『生理学』の運動、感覚等に関し十分な知識を修得する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の教科書をよく読むこと。不明な点があればすぐに質問し、その場で理解するように努めること。復習を怠らないこと。
11. 教科書	『生理学』改訂第4版 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	4 運動の生理	運動の調節(関係する中枢神経)・運動神経と運動単位(神経と筋の接続・力の調節)
2	4 運動の生理	脊髄による反射とその調節（受容器・伸張反射・誘発筋電図・複雑な反射）
3	4 運動の生理	脳幹による運動調節（姿勢反射・歩行・その他の反射）
4	4 運動の生理	高次運動機能（一次運動野・運動前野/補足運動野・大脳基底核・小脳 他）
5	5 感覚の生理	感覚の一般的な性質（感覚の分類・感覚受容器・感覚の順応）
6	5 感覚の生理	特殊感覚（視覚・聴覚）
7	5 感覚の生理	特殊感覚（平衡感覚・味覚・嗅覚）
8	確認テスト	
9	5 感覚の生理	体性感覚（皮膚感覚・深部感覚）
10	5 感覚の生理	内臓感覚（臓器感覚）
11	5 感覚の生理	痛覚（痛みの分類・発痛物質・痛みの伝導路・疼痛の抑制システム）
12	15 体温とその調節	体温（体内の温度分布・体温の生理的変動）・熱産生（ふるえ・非ふるえ）
13	15 体温とその調節	熱放散（熱放散のしくみ）・体温調節（行動性/自律性調節・体温調節中枢）
14	15 体温とその調節	気候順化（暑熱順化・寒冷順化）・発熱とうつ熱（発熱・うつ熱）
15	振返授業	復習
16	振返授業	復習
17	振返授業	復習
18		後期期末試験
19	振返授業	復習
20	振返授業	復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの働きⅢ
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	武本 泰（たけもと やすし）
7. 授業形式	対面授業
8. 授業の目標	人体の諸器官の正常機能、特に血液、循環、呼吸の基本について習得する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	双方向の授業、つまり「ディスカッション」や「ディベート」に重点を置くため、自ら「調べ、考える力」を養うよう心がけること。
11. 教科書	生理学（改定第4版），柔道整復学校協会，南江堂
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	人体の構造と機能，放送大学教材

14. 講義スケジュール		
回数	単元	概要
1	第8章・血液	ガイダンス、血液概論、血液の成分と組成（血漿）
2	第8章・血液	血液の成分と組成（血漿、赤血球）
3	第8章・血液	血液の成分と組成（赤血球、白血球、血小板、血球の分化）
4	第8章・血液	止血（局所的血管収縮、血小板凝集、血液凝固）
5	第8章・血液	血液型（ＡＢＯ式血液型、Ｒｈ式血液型）
6	第10章・循環	免疫
7	第10章・循環	循環概論、心臓の機能的解剖、心臓の電氣的活動
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9	第10章・循環	心電図
10	第10章・循環	心臓の活動周期
11	第10章・循環	血管系、リンパ管
12	第10章・循環	循環調節
13	第11章・呼吸	呼吸概論、呼吸器系の構造
14	第11章・呼吸	換気
15	振返授業	ガス交換とガス運搬
16	振返授業	血液まとめ
17	振返授業	循環まとめ
18	前期期末試験	前期期末試験
19	振返授業	循環まとめ
20	振返授業	呼吸まとめ

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	スポーツ科学
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	庄司智則
7. 授業形式	視聴覚機器を利用しながら、講義形式で進めていきます。
8. 授業の目標	スポーツ科学のなかでもとくに体力トレーニングについての理解を深めます。トレーニングの原理・原則をしっかりと理解した上で、体力要素や運動エネルギーの観点からトレーニング計画を立案することができ、かつ実際に指導できる知識を修得します。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	はじめて耳にするような専門用語がでてきますので、復習は必ず行ってください。
11. 教科書	必要に応じて資料を配布します。
12. 副読本	『やさしいスポーツ医科学の基礎知識』藤本繁夫ら編 嵯峨野書院、『スポーツトレーニング理論』伊藤マモル監修 日本文芸社
13. 推薦参考図書	財団法人日本スポーツ協会・公認スポーツ指導者養成テキスト：リファレンスブック

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1回	ガイダンス、スポーツ科学とは
2	第2回	スポーツパフォーマンスとトレーニング 1
3	第3回	スポーツパフォーマンスとトレーニング 2
4	第4回	体力とは 1
5	振返授業	総復習
6	第6回	後期確認テスト
7	第7回	体力とは 2
8	第8回	スポーツと健康 1
9	第9回	スポーツと健康 2
10	第10回	トレーニング理論とその方法 1
11	第11回	トレーニング理論とその方法 2
12	第12回	スポーツ外傷と障害 1
13	第13回	スポーツ外傷と障害 2
14	第14回	総復習
15	第15回	後期期末試験
16	振返授業	トレーニングの進め方 1
17	振返授業	トレーニングの進め方 2
18	振返授業	アスレティックトレーナーとは

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	解剖学Ⅰ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	和栗 聡
7. 授業形式	講義スライドや教科書、または板書しながら解説する。
8. 授業の目標	脈管の構造と機能を簡単に説明できる。当該科目に関連する国家試験問題について75%以上正答できる。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	解剖学は医学の基礎となる学問です。その語句や概念を覚え理解することは、様々な応用につながると共に、この分野で仕事をするためには不可欠です。毎回の講義前には教科書（以下）を用いて予習を行ってください。
11. 教科書	「解剖学 第2版」岸清・石塚寛編 医歯薬出版
12. 副読本	「人体解剖学パーフェクト辞典 伊藤正裕・中村陽市 監修 ナツメ社
13. 推薦参考図書	「ネッター解剖学アトラス 第7版」F.H.Netter著 相磯貞和/今西宣晶 訳 南江堂

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	脈管系総論	体循環と肺循環、血管の形態と構造
2	心臓（1）	心臓の位置と形態、心臓の構造
3	心臓（2）	心臓の弁、心臓壁、刺激伝導系、心臓の神経、心膜
4	脈管系（1）	大血管と上肢の動静脈
5	脈管系（2）	下肢の動静脈
6	脈管系（3）	頭頸部の動静脈
7	心臓・脈管系復習（1）	前半の復習
8	確認テスト	復習と確認テスト
9	脈管系（4）	前半の発展的内容（国家試験問題）
10	脈管系（5）	胸腹部の動静脈
11	脈管系（6）	骨盤部の動静脈
12	リンパ系（1）	リンパ管系
13	リンパ系（2）	リンパ性器官（リンパ節・脾臓・胸腺）
14	心臓・脈管系復習（2）	前半の復習
15	振返授業	心臓・脈管系復習（3）後半の復習
16	振返授業	心臓・脈管系復習（4）脈管と臓器の関係
17		後期期末試験
18	振返授業	発展的学習（1）（国家試験問題）
19	振返授業	発展的学習（2）（国家試験問題）
20	振返授業	総復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	本間俊作、植村武文
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌組織について、機能の基盤となる解剖学的構造を理解する。
9. 成績評価	定期試験の結果に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	事前に、教科書の該当するページを読んでもくること。
11. 教科書	解剖学、柔道整復師協会編、医歯薬出版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	総論	内蔵系総論
2	内分泌系（1）	内分泌系総論・下垂体・松果体（207ページから210ページ）
3	内分泌系（2）	甲状腺・膵ランゲルハンス島・副腎（211ページから215ページ）
4	泌尿器系（1）	腎臓（186ページから190ページ）
5	泌尿器系（2）	尿管・膀胱・尿道（190ページから192ページ）
6		これまでの総復習、補習
7	前期確認テスト	前期確認テスト
8	消化器系（1）	腔・唾液腺・舌・咽頭・食道（157ページから165ページ）
9	消化器系（2）	胃・小腸・大腸・肛門（165ページから182ペー170）
10	呼吸器系（1）	呼吸器総論・鼻腔・喉頭・声帯・気管・気管支（177ページから182ページ）
11	呼吸器系（2）	肺・肺胞・胸膜・縦隔（182ページから186ページ）
12	生殖器系（1）	男性生殖器（精巣・精管・精嚢・前立腺・陰茎）（192ページから197ページ）
13	生殖器系（2）	女性生殖器（卵巣・卵管・子宮・膣・外陰部）（197ページから201ページ）
14	生殖器系（3）	会陰・性周期・妊娠と胎盤（201ページから205ページ）
15	統合教育科目Ⅰ	これまでの総復習、補習、過去の国家試験問題の解説
16	統合教育科目Ⅰ	これまでの総復習、補習、過去の国家試験問題の解説
17	前期期末試験	前期期末試験
18	統合教育科目Ⅰ	これまでの総復習、補習、過去の国家試験問題の解説
19	統合教育科目Ⅰ	これまでの総復習、補習、過去の国家試験問題の解説
20	統合教育科目Ⅰ	これまでの総復習、補習、過去の国家試験問題の解説

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	解剖学Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	本間俊作
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	1) 神経系を構成する細胞と組織、2) 中枢神経の構造と各部位の機能、3) 末梢から中枢へ情報を伝える上行性伝導路と、中枢から末梢へ運動指令を伝える下行性伝導路、4) 脳神経の分類と、それぞれの神経が担う機能、5) 脊髄神経による末梢組織（筋肉・皮膚）の支配様式、6) 感覚器、特に視覚器と聴覚器の構造
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	事前に、教科書の該当するページを読んでくこと。
11. 教科書	解剖学、柔道整復師協会編、医歯薬出版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	神経系の基礎	神経系の概論と組織学（ページ217-220③まで）
2	神経系の基礎	脳の発生と区分、中枢神経系の基本形としての脊髄（ページ220④、230から232①）
3	神経系の基礎	脳室と髄膜（ページ221⑤、⑥から223）
4	中枢神経系	延髄、橋、中脳、小脳（ページ227から230）
5	中枢神経系	間脳、大脳（ページ224から227）
6	中枢神経系	下行性、上行性伝導路（ページ233から238）
7	確認テスト	確認テスト（模擬試験）、解説
8	確認テスト	確認テスト（本番）、解説
9	感覚器	視覚器（ページ265から270）、聴覚器（ページ270から273）、その他感覚器（皮膚、味覚、嗅覚）（ページ261から265、273から274）
10	自律神経系	交感神経と副交感神経（ページ256から259）
11	末梢神経系	脳神経（ページ238から245）
12	末梢神経系	脊髄神経概論、胸神経（ページ245から246、250）
13	末梢神経系	頸神経叢、腕神経叢（ページ246から250）
14	末梢神経系	腰神経叢、仙骨神経叢（ページ251から255）
15	統合教育科目Ⅰ	復習
16	統合教育科目Ⅰ	復習
17		後期期末試験
18	統合教育科目Ⅰ	復習
19	統合教育科目Ⅰ	復習
20	統合教育科目Ⅰ	復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	解剖学Ⅳ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	浜田 義信
7. 授業形式	講義（プロジェクター使用）
8. 授業の目標	系統的に履修した解剖学を再確認し国家試験問題に対応できることを目標とする
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	1. 授業資料はteamsにアップロードしますのでiPadは必ず持参してください。 2. 授業は基本的にシラバスに準じますが、若干の変更をする場合があります。
11. 教科書	『解剖学 改訂第2版』 岸 清・飯塚 寛 編 医歯薬出版
12. 副読本	特にありません
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第10版』 松村 譲児 著 中外医学社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	組織学①	組織学総論、上皮組織・腺組織
2	組織学②	支持組織（結合組織・軟骨組織・骨組織・血液）
3	組織学③	筋組織、神経組織
4	脈管系①	総論、心臓 ※ 確認試験
5	脈管系②	動脈系、静脈系
6	脈管系③	リンパ系
7		後期定期試験
8	消化器系①	総論、口腔、咽頭、食道
9	消化器系②	胃、小腸、大腸
10	消化器系③	唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜
11	呼吸器系①	総論、鼻腔、咽頭、喉頭 ※ 確認試験
12	呼吸器系②	気管、気管支、肺、胸膜
13	泌尿生殖器系①	総論、腎臓、尿管、膀胱、尿道 ※ 確認試験
14	泌尿生殖器系②	女性生殖器、男性生殖器
15		解剖学Ⅳ まとめ ※ 確認試験
16	振返授業	骨格系①
17	振返授業	骨格系②
18	振返授業	筋系①
19	振返授業	筋系②
20	振返授業	神経系①
21	振返授業	神経系②

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	生理学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1 部
4. 対象学年・対象学期	第 2 学年・前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	濱津
7. 授業形式	講義とプリント演習
8. 授業の目標	3 学年に進級するための実力をつける。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	教科書を必ず持参すること。（解剖学の教科書を必要とすることがある）
11. 教科書	生理学 改訂第 4 版 南江堂
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	生理学ワークブック 医歯薬出版株式会社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	14章 消化と吸収	A 消化器系の構成とはたらき（消化管・消化管壁プリント演習）
2		B 食物の消化と吸収 口腔 嚥下 （唾液腺プリント演習）
3		B 食物の消化と吸収 胃 小腸 （胃腺・絨毛プリント演習）
4		C 糖質・タンパク質の消化と吸収
5		C 脂質・食物繊維・ビタミン・ミネラルの消化と吸収 大腸の構造
6		ここまでのまとめ（プリント演習含む）
7	前期確認テスト	前期確認テスト
8	14章 消化と吸収	肝臓と胆汁（胆道系プリント演習）
9	12章 尿の生成と排泄	A 腎臓の構造と機能（腎門～プリント演習）
10		B 尿の生成（腎小体・ネフロンプリント演習）
11		B 尿の生成 ろ過 再吸収 分泌
12		C 腎血流量 クリアランス
13		D 排尿 神経系の復習
14		D 排尿 畜尿と排尿
15	統合教育科目 I	試験前まとめ（プリント演習）
16	前期期末試験	前期期末試験
17	統合教育科目 I	13－A 生体に必要な栄養素（プリント演習含む）
18	統合教育科目 I	13－B エネルギー代謝
19	統合教育科目 I	13－C 栄養素の代謝
20	統合教育科目 I	13－D 食物と栄養

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	生理学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	濱津慶子
7. 授業形式	講義と対話
8. 授業の目標	国家試験に合格できる実力を身につける。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	教科書を必ず持参する。（解剖学も必要とする場合あり）
11. 教科書	生理学 第4版（南江堂）
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	カラー図解 人体の正常構造と機能（日本医事新報社）

14. 講義スケジュール		
回数	単元	概要
1	6. 内分泌	内分泌腺の種類 ホルモンの分類
2		分泌調節 作用機序
3		視床下部ホルモン 下垂体前葉ホルモン
4		下垂体後葉ホルモンと血圧調節
5		甲状腺ホルモンと負のフィードバック調節
6		副腎のホルモン
7		ここまでのまとめ
8		確認テスト
9		膵島のホルモン
10		骨代謝ホルモン
11		血糖調節と代謝
12	7. 生殖	性分化
13		男性生殖器
14		女性生殖器と性周期①
15	統合教育科目Ⅰ	性周期②
16	統合教育科目Ⅰ	ここまでのまとめ
17		後期期末試験
18	統合教育科目Ⅰ	妊娠と分娩
19	統合教育科目Ⅰ	乳汁分泌
20	統合教育科目Ⅰ	追再試験対策

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	生理学Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	天貝裕地
7. 授業形式	講義 タブレットPC・プロジェクター使用
8. 授業の目標	ねらい これまで学んだ生理学を総復習し、知識を確実なものにする。 到達目標 各単元を横断的に理解し、あらゆる課題に対応できる応用力を培う。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の予習・授業内容の復習
11. 教科書	『生理学』改訂第4版 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	1章 生理学とは 2章 筋の生理	細胞の構造と機能・組織/器官と生体の機能系・生体の恒常性と統合機能・体液の区分と組成 骨格筋・心筋・平滑筋
2	3章 神経の生理	神経信号の伝達・神経系の構成・脳の高次機能・内臓機能の調節
3	4章 運動の生理	運動の調節・運動神経と運動単位・脊髄による反射とその調節・脳幹による運動調節・高次運動機能
4	5章 感覚の生理	感覚の一般的な特性・特殊感覚・体性感覚・内臓感覚・痛覚
5	模擬試験	模擬試験
6	6章 内分泌	内分泌腺とホルモン・それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき・ホルモンによる内部環境の恒常性維持
7	7章 生殖	性分化・男性生殖器・女性生殖器・妊娠と分娩
8	8章 血液	血液の成分と組成・止血・血液型・免疫
9	9章 骨の生理	骨の構造・骨の成長
10	10章 循環	心臓・血管・リンパ系・循環調節
11	11章 呼吸の生理	呼吸器系の構造・換気・ガス交換と運搬・呼吸周期の調節
12	12章 尿の生成と排泄	腎臓の構造と機能・尿の生成・腎血流量・排尿・腎臓による体液の調節
13	13章 栄養と代謝	生体に必要な栄養素・エネルギー代謝・栄養素の代謝・食物と栄養
14	14章 消化と吸収	消化器系の構成とはたらき・食物の消化と吸収・各栄養素の消化と吸収
15	振返授業 15・16・17章	体温・熱産生・熱放散・体温調節・気候順化・発熱とうつ熱 細胞/組織の加齢現象・高齢者の生理的特徴・運動と加齢 成長に伴うからだや運動能力の発達・競技者の生理学的特徴/変化
16	前期期末試験	前期期末試験
17	振返授業	
18	振返授業	

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	運動学
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	小俣純一
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	人間の運動にかかわる身体の機能と構造についての基本的な知識を理解して、説明することができるようになる。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	講義中に少し、動きや動作の経験をしてもらうことがあります。
11. 教科書	運動学 改訂第3版 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	基礎運動学 第6版 医歯薬出版株式会社、筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医歯薬出版株式会社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		運動学の目的、運動の表し方、身体運動と力学
2		身体運動と力学、運動器の構造と機能
3		運動器の構造と機能、神経脳構造と機能
4		神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動
5		四肢と体幹の運動
6		四肢と体幹の運動
7		まとめ
8		確認テスト
9		運動学に関する演習実施 課題に対するレポート提出あり
10		姿勢
11		歩行
12		歩行
13		運動発達
14		運動学習
15	統合教育科目 I	まとめ
16	統合教育科目 I	まとめ
17		後期期末試験
18	統合教育科目 I	試験解説
19	統合教育科目 I	運動学 応用
20	統合教育科目 I	運動学 応用

2026年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	3単位
6. 担当講師	本間俊作、濱津慶子、小俣純一
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	各科目のまとめとして包括的に学習し更なる知識の向上を図る
9. 成績評価	後期試験にて評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、無断の電子媒体操作などは厳禁
11. 教科書	「解剖学 第2版」岸清・石塚寛編 医歯薬出版、生理学 改訂第4版 南江堂
12. 副読本	「ネッター解剖学アトラス 第5版」F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂 いちばんやさしい生理学 成美堂出版
13. 推薦参考図書	「入門人体解剖学 第5版」藤田恒夫著 南江堂 カラー図解 人体の正常構造と機能 日本医事新報社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
4月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
5月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
6月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
7月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
8月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
9月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
10月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
11月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
12月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
1月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
2月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習 後期試験
3月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習

2026年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ①
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・通年
5. 単位数	4単位（統合教育科目Ⅱ①②③④）
6. 担当講師	濱津
7. 授業形式	講義及び4択演習
8. 授業の目標	国家試験に合格できる実力をつける。
9. 成績評価	後期定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	教科書を必ず持参すること。
11. 教科書	生理学 第4版 南江堂
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	生理学 受験と学習マニュアル

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	17章 発育と発達および 競技者の生理学的特徴	小児期から青年期の発育の特徴（筋肉の復習）
2		小児期から青年期の発育の特徴（呼吸器の復習）
3		小児期から青年期の発育の特徴（心周期の復習）
4		オーバートレーニング
5		運動の発達と習熟（神経系の復習 運動単位等）
6		運動の発達と習熟（運動発達）
7		運動の発達と習熟（歩行）
8		競技者の生理学的特徴・変化（心拍出量等の復習）
9		トレーニングによる神経機構の変化（伸張反射と誘発筋電図）
10		トレーニングによる神経機構の変化（脊髄を中枢とする反射）
11		トレーニングによる神経機構の変化（脳幹を中枢とする反射）
12		トレーニングによる姿勢調節能力の変化（平衡感覚の復習）
13	模擬試験	模擬試験
14	17章 発育と発達および 競技者の生理学的特徴	眼球運動と姿勢制御（視覚路の復習）
15		興奮収縮連関
16	振返授業	調整機関

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ②
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	統合教育科目Ⅱ（①②③④）4単位
6. 担当講師	大沼 英子
7. 授業形式	国家試験過去問題および類題を使って解答解説を行い実践力を養う。また、関連する資料を共有・配布しスライドを用いて必要な項目中心に確認・復習を行う
8. 授業の目標	国家試験問題に対応した必要領域の基本事項、重要事項の確認と習得
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	講義の予習と確認を行い、問題で不足する内容について各自補修すること
11. 教科書	解剖学 医歯薬出版
12. 副読本	必要に応じ適宜紹介する
13. 推薦参考図書	必要に応じ適宜紹介する

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	国家試験対策	解剖学演習
2	国家試験対策	解剖学演習
3	国家試験対策	解剖学演習
4	国家試験対策	解剖学演習
5	国家試験対策	解剖学演習
6	国家試験対策	解剖学演習
7		後期期末試験
8	国家試験対策	解剖学演習
9	国家試験対策	解剖学演習
10	国家試験対策	解剖学演習
11	国家試験対策	解剖学演習
12	国家試験対策	解剖学演習
13	国家試験対策	解剖学演習
14	国家試験対策	解剖学演習
15	国家試験対策	解剖学演習
16	振返授業	解剖学演習
17	振返授業	解剖学演習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ③
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	統合教育科目Ⅱ（①②③④） 4単位
6. 担当講師	濱津慶子
7. 授業形式	問題演習と解答解説
8. 授業の目標	国家試験に合格できる実力を確実につける。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	教科書を必ず持参する。
11. 教科書	生理学 第4版（南江堂）
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	16章 高齢者の生理学的 特徴・変化	細胞・組織の加齢現象（細胞分裂・タンパク質合成の復習）
2		加齢による臓器機能の変化（連合機能の復習）
3		加齢による臓器機能の変化（骨粗鬆症）
4		加齢による臓器機能の変化（感覚器系の復習）
5		高齢者に多い疾患・障害（フレイル）
6		運動と加齢（歩行）
7		後期期末試験
8	全範囲	問題演習と解答解説
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17	振返授業	問題演習と解答解説
18		

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ④
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	総合教育科目Ⅱ（①②③④）4単位
6. 担当講師	大沼 英子
7. 授業形式	国家試験過去問題および類題を使って解答解説を行い実践力を養う。また、関連する資料を共有・配布しスライドを用いて必要な項目中心に確認・復習を行う
8. 授業の目標	国家試験問題に対応した必要領域の基本事項、重要事項の確認と習得
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	講義の予習と確認を行い、問題で不足する内容について各自補修すること
11. 教科書	一般臨床医学 医歯薬出版
12. 副読本	必要に応じ適宜紹介する
13. 推薦参考図書	必要に応じ適宜紹介する

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	国家試験対策	一般臨床医学演習
2	国家試験対策	一般臨床医学演習
3	国家試験対策	一般臨床医学演習
4	国家試験対策	一般臨床医学演習
5	国家試験対策	一般臨床医学演習
6	国家試験対策	一般臨床医学演習
7	国家試験対策	後期期末試験
8	国家試験対策	一般臨床医学演習
9	国家試験対策	一般臨床医学演習
10	国家試験対策	一般臨床医学演習
11	国家試験対策	一般臨床医学演習
12	国家試験対策	一般臨床医学演習
13	国家試験対策	一般臨床医学演習
14	国家試験対策	一般臨床医学演習
15	国家試験対策	一般臨床医学演習
16	国家試験対策	一般臨床医学演習
17	振返授業	一般臨床医学演習
18	振返授業	一般臨床医学演習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	病理学概論
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	飯島 直子
7. 授業形式	作製したプリントと教科書を中心に進める。iPadを持参すること。
8. 授業の目標	次年度の国試に全員合格できるような授業を目指す。
9. 成績評価	定期試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠りは厳禁。丸暗記でなく仕組みを理解するように心がける。
11. 教科書	『病理学概論』 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	『病理学』 堤寛著 医学芸術社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
2	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
3	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
4	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
5	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
6	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
7	第4章	循環障害
8	前期確認テスト	前期確認テスト・循環障害
9	第4章	循環障害
10	第4章	循環障害
11	第4章	循環障害
12	第4章	循環障害
13	第4章	循環障害
14	第3章	細胞傷害（退行性病変，代謝障害）
15	統合教育科目Ⅲ	細胞傷害（退行性病変，代謝障害）
16	統合教育科目Ⅲ	細胞傷害（退行性病変，代謝障害）
17	統合教育科目Ⅲ	細胞傷害（退行性病変，代謝障害）
18		前期期末試験
19	統合教育科目Ⅲ	総復習
20	統合教育科目Ⅲ	総復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	一般臨床医学
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	関根 英治 永福 智志
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	内科疾患の病態生理の理解と国試対策
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	積極的に質問して理解することにより、わからないままにしない。
11. 教科書	医歯薬出版株式会社 一般臨床医学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション
2		内科診断学①
3		内科診断学② 心肺所見
4		内科診断学③ 神経学的所見
5		循環器①
6		循環器②
7		確認テストと解説（関根分）
8		確認テストと解説（永福分）
9		呼吸器①
10		呼吸器②
11		循環器③
12		消化器① 消化管疾患①
13		内分泌① 下垂体 甲状腺
14		血液疾患
15	統合教育科目Ⅲ	内分泌② 副甲状腺 副腎
16	統合教育科目Ⅲ	膠原病 慢性関節リウマチ SLE ページェット
17		後期期末試験
18	統合教育科目Ⅲ	期末試験解説（永福分）
19	統合教育科目Ⅲ	期末試験解説（関根分）
20	統合教育科目Ⅲ	自習時間

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	外科学概論
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	大和 宣介
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	外科学を理解する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テスト、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	教科書、ノート、授業プリントを復習する。
11. 教科書	外科学概論、改訂第4版（南江堂）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1章	損傷、創傷、熱傷
2	第2章	炎症と外科感染症
3	第3章	腫瘍
4	第4章	ショック
5	第5章	輸血輸液
6	第6章、第7章	消毒滅菌と手術
7	第8章、第9章	麻酔と移植免疫
8		後期中間試験
9	第10章	出血止血
10	第11章	心肺蘇生法
11	第12章	脳・神経疾患の主要徴候
12	第13章、第14章	甲状腺頸部疾患と胸壁呼吸器疾患
13	第15章	心臓・脈管疾患
14	第16章、第17章	乳腺疾患と腹部外科疾患の症状
15	統合教育科目Ⅲ	復習
16	統合教育科目Ⅲ	復習
17		後期期末試験
18	統合教育科目Ⅲ	復習
19	統合教育科目Ⅲ	復習
20	統合教育科目Ⅲ	復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	整形外科学
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	佐原 啓太
7. 授業形式	映像授業 小テストあり
8. 授業の目標	整形外科の考え方を学び、整形外科医とコミュニケーションが取れるようになる。
9. 成績評価	定期試験の評価に加えて、授業内の小テストも評価に加えます
10. 受講上の注意	特にありません
11. 教科書	整形外科学
12. 副読本	別途資料を用意します
13. 推薦参考図書	なし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	骨折1	イントロダクション、大腿骨近位部骨折
2	骨折2	上腕骨近位端骨折
3	骨折3	橈骨遠位端骨折
4	骨折4	腰椎椎体骨折
5	骨折5	鎖骨骨折、上腕骨顆上骨折
6	骨折6	肩関節脱臼、足関節骨折
7	骨折7	骨折まとめ、救急患者の対応について
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9	スポーツ障害1	前十字靱帯損傷、高十字靱帯損傷
10	スポーツ障害2	側副靱帯損傷、半月板損傷
11	スポーツ障害3	脳振盪
12	変性疾患1	変形性膝関節症 変形性股関節症
13	変性疾患2	腰椎椎間板ヘルニア
14	変性疾患3	骨粗鬆症
15	まとめ	まとめ グループワーク
16	統合教育科目Ⅲ	国家試験対策1
17	統合教育科目Ⅲ	国家試験対策2
18		前期期末試験
19	統合教育科目Ⅲ	国家試験対策3
20	統合教育科目Ⅲ	国家試験対策4

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	リハビリテーション医学
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	小俣 純一
7. 授業形式	講義を中心に実施する。資料は毎講義前に配布するので、予習を実施すること。また、グループでの演習を実施して、その結果を発表してもらう。
8. 授業の目標	臨床で関わることが多いリハビリテーション医学の知識や考え方について十分に理解して、チーム医療の一端を担える専門職として活躍するための基盤を作ること为目标とする。また、国家試験受験に必要な知識も理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	わからない部分等は、積極的に質問等で理解するように努めること。
11. 教科書	公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 リハビリテーション医学 改訂第4版
12. 副読本	リハビリテーション医学・医療コアテキスト準拠 リハビリテーション医学・医療Q&A
13. 推薦参考図書	リハビリテーション医学・医療コアテキスト準拠 リハビリテーション医学・医療Q&A

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	総論	理論・対象と障害者の実態・関連職種・治療技術
2	障害の階層とアプローチ1	ICF・ICIDHの分類およびアプローチのプランニング
3	障害の階層とアプローチ2	課題：グループごとに症例を用いてICF・ICIDHの分類およびアプローチのプランニング演習
4	リハビリテーション評価1	評価の総論
5	リハビリテーション評価2	関節可動域、徒手筋力測定、日常生活評価 等
6	リハビリテーション評価3	運動失調、神経系の評価 等
7	障害と治療1	障害の総論（関節拘縮、変形、筋委縮、麻痺 等）
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9	障害と治療2	障害に対する治療の概要
10	運動器1	フレイル等、骨粗鬆症、骨折、捻挫、腰痛
11	運動器2	上肢
12	運動器3	下肢
13	脳卒中1	分類と特徴、障害
14	脳卒中2	リハビリテーション
15	統合教育科目Ⅲ	定期試験前確認
16	前期期末試験	前期期末試験
17	統合教育科目Ⅲ	定期試験振り返り
18	統合教育科目Ⅲ	リハビリテーションに関わる研究紹介
19	統合教育科目Ⅲ	リハビリテーションに関わる研究紹介
20	統合教育科目Ⅲ	まとめ

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	疾病と傷害演習
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	飯島 直子
7. 授業形式	作製したプリントと教科書を中心に授業を進める。またiPadを使用する。
8. 授業の目標	国試に全員合格できる授業を目指す。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠りは厳禁。丸暗記でなく仕組みを理解するように心がける。
11. 教科書	『病理学概論』 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	『病理学』 堤寛著 医学芸術社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第6章	炎症
2	第6章	炎症
3	第6章	炎症
4	第7章	免疫異常、アレルギー
5	第7章	免疫異常、アレルギー
6	第7章	免疫異常、アレルギー
7		後期期末試験
8	第8章	腫瘍
9	第8章	腫瘍
10	第8章	腫瘍
11	第9章	先天性異常
12	第9章	先天性異常
13	第9章	先天性異常
14	第10章	病因
15	第10章	病因
16	振返授業	復習
17	振返授業	復習
18	振返授業	復習

2026年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	3単位
6. 担当講師	飯島直子、佐原啓太、小俣純一、関根英治、大和宣介
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	各科目のまとめとして包括的に学習し更なる知識の向上を図る
9. 成績評価	後期定期試験にて評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、無断の電子機器操作などは厳禁
11. 教科書	『外科学概論』改訂第4版（南江堂）、『一般臨床医学』医歯薬出版株式会社、『病理学概論』 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版、『整形外科学』南江堂
12. 副読本	『標準整形外科学』医学書院
13. 推薦参考図書	『病理学』 堤寛著 医学芸術社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
4月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
5月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
6月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
7月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
8月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
9月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
10月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
11月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
12月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
1月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
2月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習 後期試験
3月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅳ①
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位（統合教育科目Ⅳ①②）
6. 担当講師	関根 英治 永福 智志
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	内科疾患の病態生理の理解と国試対策
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	積極的に質問して理解することにより、わからないままにしない。
11. 教科書	医歯薬出版株式会社 一般臨床医学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		血液② 白血病 紫斑病 血友病 【関根】
2		消化器② 【関根】
3		腎① 腎不全 【永福】
4		肝・胆・膵① 【関根】
5		腎② ネフローゼ 急性糸球体腎炎 慢性糸球体腎炎 【永福】
6		代謝・栄養疾患 糖尿病、高脂血症、痛風 【永福】
7		肝・胆・膵② 【関根】
8		呼吸器③ 自然気胸、緊張性気胸 【関根】
9		神経疾患① 総論 【永福】
10		神経疾患② 脳血管障害＋腫瘍性疾患＋感染性疾患 【永福】
11		感染症① 細菌感染症 【関根】
12		神経疾患③ 機能性疾患＋神経変性疾患 【永福】
13		感染症② ウイルス感染症 【関根】
14		神経疾患④ 炎症性神経疾患＋神経免疫疾患＋筋疾患 【永福】
15		前期期末試験
16	振返授業	まとめ
17	振返授業	まとめ
18	振返授業	まとめ

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅳ②
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位（統合教育科目Ⅳ①②）
6. 担当講師	大和 宣介
7. 授業形式	講義形式の一般授業
8. 授業の目標	外科学全般の理解
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業で配布する練習問題、黒板（ホワイトボード）、ノートを復習して下さい。
11. 教科書	外科学概論（改訂第4版） 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	1章	損傷
2	2章	炎症と外科感染症
3	3章	腫瘍
4	4章	ショック
5	5章～6章	輸血輸液、消毒滅菌
6	7章～8章	手術、麻酔
7	9章～10章	移植免疫、出血止血
8	11章	心肺蘇生法
9	12章	脳神経外科疾患
10	13章～14章	甲状腺頸部、胸壁呼吸器疾患
11	15章～16章	心臓脈管疾患、乳腺疾患
12	17章	腹部外科疾患
13	1章～17章	総合復習(国試重要項目1回目)
14	1章～17章	総合復習(国試重要項目2回目)
15	1章～17章	総合復習(国試重要項目3回目)
16	振返授業	総合復習(国試重要項目、数値確認と暗記)
17	振返授業	総合復習(国試重要項目、300題演習)

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	保健医療福祉
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	国分 美和子
7. 授業形式	教科書に従い作成した配布資料をプロジェクター映写して講義を行う。同時に「重要項目」を講義の進行状況に従って学生にまとめさせる。
8. 授業の目標	基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。また、国家試験を視野に国家試験形式の問題に対応できるようにする。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	講義中のノート、配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版（南江堂）
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	国民衛生の動向 2025／2026（厚生統計協会）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第16章 疫 学	疾病の要因や原因の究明を目的とした調査の基本的考え方、調査対象、調査方法、調査結果の分析の概略について把握する。
2	第3章 疾病予防と健康管理	健康から疾病が発病するまでの経過を知ることにより、その段階に合わせた予防の基本的な考え方や手法を把握する。
3	第8章 母子保健	乳児・幼児における健康状況は母体の健康状態が深く影響する。そこで、母子の健康指標と現状、母子保健対策や母子保健法について把握する。
4		
5	第9章 学校保健	学童期においては心身ともに著しく発達する時期であり、学校は学校教育の特有の場であることを踏まえ、学校教育法・学校保健安全法、学校保健活動の内容及組織、学童期の健康状況を把握する。
6		
7	第10章 産業保健	労働者は特殊な作業環境に置かれる場合も少なくない。その作業環境の影響による種々の職業病罹患の危険性にさらされている。そこで、職業病の概略と現状、労働安全衛生法、産業保健対策について把握する。
8		
9	第2章 健康の概念（中項目D）	集団の健康を把握するための健康指標とその意味、および現状を把握する。
10		
11	第11章 成人・高齢者保健 第14章 衛生行政と保健医療の制度	人口の高齢化に伴い、成人・高齢者の生活習慣病の発症が医療費増大や介護など社会問題の原因となっている。そこで、生活習慣病の現状と予防、さらに老後のQOLを向上させるための高齢者保健・福祉対策について把握する。合わせて医療保険制度（国民医療費の動向を含む）や介護保険制度についても把握する。
12		
13		
14	第12章 精神保健	精神障害者を社会から隔離する傾向にあったが、人権を尊重し、社会復帰できる体制へと方向転換されてきた。精神障害（精神の病気）の概略と現状、精神保健・福祉対策について把握する。
15	振返授業	第13章 地域保健と国際保健 日本国内の地域における保健活動の取り組みの基本的な考え方、および世界レベルでの環境保全、保健医療での協力の概略について把握する。
16	前期期末試験	前期期末試験
17	振返授業	第13章 地域保健と国際保健 日本国内の地域における保健活動の取り組みの基本的な考え方、および世界レベルでの環境保全、保健医療での協力の概略について把握する。
18	振返授業	第15章 医療の倫理と安全の確保 医療関係者としてあるべき姿、必要となる倫理観、医療における安全性を確保するための対策の基本について把握する。

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	衛生学・公衆衛生学
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	国分 美和子
7. 授業形式	基本的には教科書、教科書に基づいて作成した配付資料とiPadを使って講義を行う。
8. 授業の目標	基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版（南江堂）
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	国民衛生の動向 2025/2026（厚生統計協会）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1章 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	概論。衛生学、公衆衛生学とは？ 学問体系などについて把握する。
2	第2章 健康の概念（中項目A～C）	健康とは何か、どのような状態を指すのか、について把握する。
3		
4		
5	第4章 感染症の予防	感染症の成立、感染症の種類と現状、感染症対策の概略（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、検疫法、予防接種法）について把握する。
6		
7		
8	第5章 消毒	消毒の意義、消毒の種類と方法を知ることにより、病原体や対象物を考慮し、院内感染対策など目的に合わせた消毒方法の選択を把握する。
9		
10		
11	第6章 環境衛生	人間を取り巻く環境（物理的環境要因、化学的環境要因、生物的環境要因）やそれらを包含した人の活動が作り出す要因が環境やヒトの健康に及ぼす影響、特に地球環境の問題や公害問題について把握する。
12		
13		
14	第7章 生活環境・食品衛生活動	上・下水道、衣服、居住、食品衛生、栄養、廃棄物処理など日常生活に関連する環境衛生の現状および生活環境対策について把握する。
15		
16		
17	第16章 疫学	疾病の要因や原因の究明を目的とした調査の基本的考え方、調査対象、調査方法、調査結果の分析の概略について把握する。
18		
19		
20	振返授業	第15章 医療の倫理と安全の確保 医療関係者としてあるべき姿、必要となる倫理観、医療における安全性を確保するための対策の基本について把握する。
21	振返授業	後期期末試験範囲の国家試験過去問題で復習する。
22		後期期末試験
23	振返授業	後期期末試験範囲の国家試験過去問題で復習する。
24	振返授業	後期期末試験範囲の国家試験過去問題で復習する。

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	関係法規 ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として14年勤務）
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	白 江 誠
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	関係法規を理解し国家試験及び卒後役立つように理解すること
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	教科書及び資料をしっかりと読む。遅刻・欠席をしない。私語、居眠り厳禁
11. 教科書	『関係法規』『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』 社団法人全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	序論	1. 法の意義 2. 法の体系 3. 柔道整復師及び柔道整復に関する法規 4. 柔道整復お患者の権利 5. 医療過誤とリスクマネジメント
2	第1章 総則、第2章 免許	1. 柔道整復師法の目的 2. 定義 1. 柔道整復師免許 2. 免許を受けるための要件 3. 免許の申請
3	第2章 免許	4. 柔道整復師名簿 5. 免許の取消し 6. 柔道整復師免許証及び柔道整復師免許証明書 7. 免許の書き換え交付
4	第2章 免許 第3章 柔道整復師国家試験 第4章 業務	8. 免許証の再交付 9. 免許証又は免許証明書の返納及び提出 1. 試験の実施 2. 合格証書と合格証明書 1. 業務の禁止
5	第4章 業務	2. 業務の範囲 3. 秘密を守る義務 4. 都道府県知事の指示 5. 緊急時における厚生労働大臣の事務執行
6	第5章 施術所	1. 施術所の届出 2. 施術証の構造設備等 3. 施術所に対する監督
7	第6章 雑則 第7章 罰則	1. 広告 1. 罪刑法定主義
8	第7章 罰則 第8章 指定試験機関及び指定試験機関	2. 柔道整復師法に定められる罰則 3. 両罰規定 1. 指定登録機関 2. 指定試験機関
9	関係法規	1. 医師法 2. 歯科医師法 3. 保健師助産師看護師法
10	関係法規	4. 診療放射線技師法 5. 臨床検査技師等に関する法律 6. 理学療法士及び作業療法士法 7. 視能訓練士法 8. 言語聴覚士法 9. 臨床工学技士法 10. 技師装具士法
11	関係法規、医療法	11. 救急救命士法 12. 歯科衛生士法 13. 歯科技工士法 14. 薬剤師法 1. 総則 2. 医療に関する選択の支援等 3. 医療安全の確保
12	医療法	4. 病院、診療所及び助産所
13	社会福祉関係法規 社会保険関係法	1. 社会福祉法 2. 生活保護法 3. 児童福祉法 4. 身体障害者福祉法 5. 知的障害者福祉法 6. 老人福祉法 7. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 1. 健康保険法
14	社会保険関係法規 その他の関係法規	2. 国民健康保険法 3. 高齢者の医療の確保に関する法律 4. 介護保険法 1. 個人情報の保護に関する法律
15		前期期末試験
16	振返授業	演習
17	振返授業	演習
18	振返授業	演習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	柔道Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として14年勤務）
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	田村 努
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	柔道の基本となる礼法・受け身・理合（動き）の修得を目的とする。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	準備運動をしっかりと行い怪我をしないようにする。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		柔道着の着方、礼法、補強運動
2		礼法、後方受け身（下段、中段、上段）、前受け身（下段、中段）
3		側方受け身（下段、中段、上段）、前方回転受け身の基礎
4		前方回転受け身
5		試験対策
6		試験
7		前方回転受け身、立ち技の基本（組み手・足さばき）
8		前方回転受け身、立ち技（大腰）打ち込み（組み手・足さばき）
9		前方回転受け身、立ち技（大腰）投げ込み（組み手・足さばき）
10		前方回転受け身、立ち技（一本背負い投げ）打ち込み（組み手・足さばき）
11		前方回転受け身、立ち技（一本背負い投げ）投げ込み（移動打ち込み）
12		前方回転受け身、立ち技（背負い投げ）打ち込み（移動打ち込み）
13		前方回転受け身、立ち技（背負い投げ）投げ込み（移動打ち込み）
14		立ち技（移動打ち込み・約束乱取り）
15		後期期末試験
16	振返授業	寝技の基礎
17	振返授業	寝技（固技・締技・関節技）の基礎
18	振返授業	寝技（約束乱取り・乱取り）

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	柔道Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	阿部 誠紀
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	講道館柔道における『立技』『寝技』の習得，投の形の理解
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、集団行動を乱すことを禁じる。
11. 教科書	授業内で配布する資料
12. 副読本	無
13. 推薦参考図書	無

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	基礎確認	回転運動，補強運動，受け身
2	基礎確認	受け身，打込み，投込み，寝技
3		前回の復習 ※三瓶先生対応
4	立技応用	立技（左右）足技など
5	立技応用	立技（左右）足技など
6		確認テストの実施内容確認、練習
7	前期確認テスト	前期確認テスト
8		確認テストの総評
9	寝技応用	固め技，極め技など
10	立技・寝技応用	乱取り形式の説明と実践
11	総合稽古	各乱取り形式
12	総合稽古	各乱取り形式
13	総合稽古	各乱取り形式
14	総合稽古	各乱取り形式、試験の説明
15	振返授業	総復習（前期期末試験に向けて練習）
16		前期期末試験
17	振返授業	前期まとめ（試合形式稽古）
18	振返授業	柔道の形について（手技）
19	振返授業	柔道の形について（腰技）
20	振返授業	柔道の形について（足技）

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	柔道Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木 英明
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	認定実技柔道審査対策 柔道（知識技術）を習得する。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	期末試験の結果で評価する。
11. 教科書	素早く着替え、準備運動を行うこと。怪我に繋がる為、真剣に取り組むこと
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	礼法・前方回転受け身	前方回転受身、礼法
2		前方回転受身、礼法（投の形）
3	投の形	前方回転受身、礼法、投の形（手技：浮き落、背負投、肩車）①
4		前方回転受身、礼法、投の形（手技：浮き落、背負投、肩車）②
5		前方回転受身、礼法、投の形（手技：浮き落、背負投、肩車）③
6		前方回転受身、礼法、投の形（腰技：浮腰、払腰、釣込腰）①
7		前方回転受身、礼法、投の形（腰技：浮腰、払腰、釣込腰）②
8		前方回転受身、礼法、投の形（腰技：浮腰、払腰、釣込腰）③
9		前方回転受身、礼法、投の形（足技：送足払、支釣込足、内股）①
10		前方回転受身、礼法、投の形（足技：送足払、支釣込足、内股）②
11		前方回転受身、礼法、投の形（足技：送足払、支釣込足、内股）③
12	乱取・試合ルール	前方回転受身、形の復習、約束乱取①
13		前方回転受身、形の復習、約束乱取②
14		前方回転受身、形の復習、約束乱取③
15	振返授業	全体復習
16	前期期末試験	前期期末試験
17	振替授業	総復習
18	振替授業	総復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	柔道整復術の適応
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	堀尾 哲郎
7. 授業形式	録画講義（プロジェクター準備）
8. 授業の目標	柔道整復の臨床上、注意せねばならない疾患について講義する。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	録画講義であるので、集中して講義に臨んでいただきたい。
11. 教科書	「医療の中の柔道整復」：全国柔道整復学校協会監修（南江堂刊）
12. 副読本	一般臨床医学・整形外科学：全国柔道整復学校協会監修（南江堂刊）
13. 推薦参考図書	病名・症候事典：大井静雄 著（小学館刊）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	柔道整復術の適否	01) 柔整において何が適正なのかを考える。プリント：1-4
2	損傷に類似した疾患	02) 見逃してはならない疾患。プリント：5-6
3	血流障害を伴う損傷	03) 循環障害を基礎に疾患を診る。プリント：7-8
4	末梢神経損傷	04) 末梢神経の特徴を基本に考える。プリント：9
5	脱臼骨折	05) 四肢の主な脱臼骨折の特徴を学ぶ。プリント：10-11
6	外出血を伴う損傷	06) 出血が生体に与える影響を学ぶ。プリント：12-14
7		後期期末試験
8	病的骨折・脱臼	07) 腫瘍や骨粗鬆症との関係を学ぶ。プリント：15-16
9	意識障害を伴う損傷	08) 出血性脳障害について基礎を学ぶ。プリント：17-20
10	脊髄症状のある損傷	09) 脊髄損傷の基本を学ぶ。プリント：21-24
11	呼吸運動を伴う損傷	10) 主に胸部外傷について学ぶ。プリント：25-26
12	内臓損傷を合併する損傷	12) 骨折や脱臼に伴う内臓損傷を考える。プリント：25-26
13	高エネルギー外傷	13) 特にDICやFES, DVTについて詳しく学ぶ。プリント：25-26
14	総まとめ その1.	14) 問題演習1.
15	総まとめ その2.	15) 問題演習2.

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	社会保障制度※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として9年勤務）
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	鈴木 孝行
7. 授業形式	講義形式など
8. 授業の目標	柔道整復師における社会保障制度の知識を身に着ける
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠り、授業に関係ないタブレットの使用等は禁止
11. 教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理
12. 副読本	関係法規 衛生学・公衆衛生学
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	社会保障	社会保障制度について
2	社会保障	社会保障制度について
3	社会保障	社会保障制度について
4	柔道整復師業務	療養費制度について
5	柔道整復師業務	療養費制度について
6	柔道整復師業務	療養費制度について
7	柔道整復師業務	療養費制度について
8	職業倫理	柔道整復師における基本的倫理観について
9	職業倫理	柔道整復師における基本的倫理観について
10	社会保障	医療保険財政の現状と課題
11	社会保障	診療報酬制度の倫理と見識
12	柔道整復師業務	療養費請求について
13	柔道整復師業務	療養費請求について
14	職業倫理	患者対応について
15		前期期末試験
16	振返授業	社会保障制度について
17	振返授業	療養費制度について
18	振返授業	柔道整復師倫理観のまとめ

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務・介護施設で柔道整復師として2年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	三瓶 隆貴
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	外傷学習に臨むための基礎知識の確立。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	積極的に授業に参加すること。
11. 教科書	解剖学、柔道整復学・理論編
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	ネッター解剖学アトラス

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション、確認試験
2		解剖学用語、面と軸、方向位置の表現について
3		骨について①
4		骨について②
5		骨について③
6		関節と運動について①
7	前期確認テスト	前期確認テスト
8		関節と運動について②
9		上肢の骨、筋肉、関節について①
10		上肢の骨、筋肉、関節について②
11		上肢の骨、筋肉、関節について③
12		下肢の骨、筋肉、関節について①
13		下肢の骨、筋肉、関節について②
14		下肢の骨、筋肉、関節について③
15	統合教育科目Ⅵ	振り返り
16	前期期末試験	前期期末試験
17	統合教育科目Ⅵ	振り返り
18	統合教育科目Ⅵ	振り返り
19	統合教育科目Ⅵ	振り返り
20	統合教育科目Ⅵ	振り返り

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	座学
8. 授業の目標	柔道整復学の基礎となる骨折総論を体系的に理解し、説明ができる。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	柔道整復師の根幹となる授業の為、積極的に受講すること。 また難解な用語を教授するため、解らない場合は質問を積極的に行うこと
11. 教科書	柔道整復学・理論編 改訂第7版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	骨損傷の概説、確認試験
2	4-1. 骨の損傷	A. 骨の形態と機能
3	4-1. 骨の損傷	B. 骨折の概説
4	4-1. 骨の損傷	C. 骨折の分類
5	4-1. 骨の損傷	C. 骨折の分類
6	4-1. 骨の損傷	C. 骨折の分類
7	4-1. 骨の損傷	D. 骨折の症状
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9	4-1. 骨の損傷	D. 骨折の症状
10	4-1. 骨の損傷	E. 骨折の合併症
11	4-1. 骨の損傷	E. 骨折の合併症
12	4-1. 骨の損傷	F. 小児骨折とG. 高齢者骨折の特徴
13	4-1. 骨の損傷	G. 骨折の癒合日数 H. 骨折の治癒経過 I. 骨折の予後
14	4-1. 骨の損傷	J. 骨折の治癒に影響を与える因子
15	統合教育科目Ⅵ	6-1. 治療法 B. 骨折の整復法
16	統合教育科目Ⅵ	復習
17	前期期末試験	前期期末試験
18	統合教育科目Ⅵ	4択問題演習
19	統合教育科目Ⅵ	4択問題演習
20	統合教育科目Ⅵ	4択問題演習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	伊東 秀高
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	関節の構造と脱臼・軟部組織損傷の総論を理解する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、指示以外のスマートフォン・iPad操作厳禁（周囲に迷惑をかける事）
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	柔道整復学・実技編
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	関節の損傷	A. 関節の構造と機能
2	関節の損傷	B. 関節損傷の概説 C. 関節損傷の分類 D. 鑑別診断を要する類症
3	関節の損傷	E. 脱臼
4	関節の損傷	E. 脱臼
5	関節の損傷	E. 脱臼
6	関節の損傷	F. 関節構成組織損傷
7	関節の損傷	F. 関節構成組織損傷
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9	筋の損傷	A. 筋の構造と機能 B. 筋損傷の概説 C. 筋損傷の分類
10	筋の損傷	D. 筋損傷の症状 E. 筋損傷の治癒機序 F. 筋損傷の予後
11	腱の損傷	A. 腱の構造と機能 B. 腱損傷の概説 C. 腱損傷の分類
12	腱の損傷	D. 腱損傷の症状 E. 腱損傷の治癒機序
13	末梢神経損傷	A. 神経の構造と機能 B. 神経損傷の概説 C. 神経損傷の分類
14	末梢神経損傷	D. 末梢神経損傷の症状 E. 末梢神経損傷の治癒過程
15	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
16		前期期末試験
17	統合教育科目Ⅵ	前期期末試験の解説
18	統合教育科目Ⅵ	D. 末梢神経損傷の症状 E. 末梢神経損傷の治癒過程
19	統合教育科目Ⅵ	前期範囲の復習
20	統合教育科目Ⅵ	前期範囲の復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として21年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	竹沢 潤
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	診察・後療法・指導管理・外傷予防について学習し実践する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語・居眠り・他教科の勉強・タブレットとの使用
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	エビデンスから身につける物理療法

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	診察	診察のしかたについて学習する。
2	後療法	後療法の種別を学習する。
3	後療法	手技療法を学習する。（実技）
4	後療法	運動療法を学習する。（実技）
5	後療法	物理療法の種類を学習する。
6	後療法	電気療法を学習する。
7	前期確認テスト	前期確認テスト
8	後療法	温熱療法を学習する。
9	後療法	温熱療法を学習する。
10	後療法	温熱療法を学習する。
11	後療法	光線・寒冷療法を学習する。
12	後療法	牽引・間欠的圧迫療法を学習する。
13	指導管理	指導管理について学習する。
14	外傷予防	外傷予防について学習する。
15	統合教育科目Ⅵ	復習
16	前期期末試験	前期期末試験
17	統合教育科目Ⅵ	試験解答・解説
18	統合教育科目Ⅵ	物理療法：伊藤超短波実技
19	統合教育科目Ⅵ	復習
20	統合教育科目Ⅵ	復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅴ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務・介護施設で柔道整復師として2年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	三瓶 隆貴
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	柔理総論および上肢骨折、上肢脱臼、上肢軟損の理解を深める
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、忘れ物はしないこと
11. 教科書	柔道整復学（理論編・実技編）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	沿革	概要説明、（柔道整復術および柔道整復師の沿革）
2	総論	柔道整復理論・総論（骨折、脱臼、軟損）①
3		柔道整復理論・総論（骨折、脱臼、軟損）②
4		柔道整復理論・総論（骨折、脱臼、軟損）③
5	各論（骨折）	柔道整復理論・各論（上肢骨折）①
6		柔道整復理論・各論（上肢骨折）②
7		柔道整復理論・各論（上肢骨折）③
8		確認テスト
9	各論（脱臼）	柔道整復理論・各論（上肢脱臼）①
10		柔道整復理論・各論（上肢脱臼）②
11		柔道整復理論・各論（上肢脱臼）③
12	各論（軟損）	柔道整復理論・各論（上肢軟損）①
13		柔道整復理論・各論（上肢軟損）②
14		柔道整復理論・各論（上肢軟損）③
15	振返授業	復習
16	振返授業	復習
17	振返授業	復習
18		後期期末試験
19	振返授業	復習
20	振返授業	復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅴ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として34年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	刈屋 太郎
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	临床上重要な骨折、脱臼、軟損の診察・整復法・固定法などを学ぶ。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	実技映像は患者様の為にもしっかりと見て真摯な心構えを持って受講。
11. 教科書	「柔道整復理論（理論編）」 「柔道整復理論（実技編）」
12. 副読本	「標準整形外科学」
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	上肢骨折	鎖骨骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて
2		上腕骨外科頸骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて
3		上腕骨顆上骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて
4		コーレス骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて
5	下肢骨折	下腿骨骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
6		下腿骨骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
7		後期期末試験
8		後期期末試験 解説・復習
9		踵骨骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
10		色々な骨折脱臼の注意点②
11		臨床症例① （診察から固定まで）
12		臨床症例② （診察から固定まで）
13		国家試験対策①
14		国家試験対策②
15		国家試験対策③

2026年度 講義計画書（前期）

1．科目名	統合教育科目Ⅵ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務・介護施設2年で柔道整復師として勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務、接骨院で柔道整復師として6年勤務、接骨院で柔道整復師として21年勤務）
2．科目分類	専門分野
3．対象学科	柔整科 1部
4．対象学年・対象学期	第1学年・前期
5．単位数	2単位
6．担当講師	三瓶隆貴、後藤陽正、伊東秀高、竹沢潤
7．授業形式	講義形式
8．授業の目標	柔道整復理論の知識の向上を図る
9．成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10．受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11．教科書	柔道整復学・理論編
12．副読本	柔道整復学・実技編
13．推薦参考図書	

14．講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	統合教育科目Ⅵ	骨、関節基礎知識、体幹の骨、上肢の骨の総復習
2	統合教育科目Ⅵ	骨折総論総復習
3	統合教育科目Ⅵ	柔道整復師の業務範囲、診察法および施術録の扱い、骨折・脱臼の整復法、軟部組織損傷初期処置の総復習
4	統合教育科目Ⅵ	関節の構造と機能、関節損傷、関節構成組織損傷の総復習
5	統合教育科目Ⅵ	骨、関節基礎知識、体幹の骨、上肢の骨の総復習
6	統合教育科目Ⅵ	骨折総論総復習
7	統合教育科目Ⅵ	柔道整復師の業務範囲、診察法および施術録の扱い、骨折・脱臼の整復法、軟部組織損傷初期処置の総復習
8	統合教育科目Ⅵ	関節の構造と機能、関節損傷、関節構成組織損傷の総復習
9	統合教育科目Ⅵ	全身の骨、上肢・下肢の関節、各関節の運動の総復習
10	統合教育科目Ⅵ	骨折総論総復習
11	統合教育科目Ⅵ	固定法、手技療法、運動療法、物理療法、診察法、治療法の総復習
12	統合教育科目Ⅵ	関節損傷、関節構成組織損傷、脱臼、筋損傷、腱損傷、末梢神経損傷の総復習
13	統合教育科目Ⅵ	全身の骨、上肢・下肢の関節、各関節の運動の総復習
14	統合教育科目Ⅵ	骨折総論総復習
15	統合教育科目Ⅵ	固定法、手技療法、運動療法、物理療法、診察法、治療法の総復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として8年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	齊藤 慎吾
7. 授業形式	1グループを3,4人で構成し、グループ内で考えながら授業に能動的に参加する
8. 授業の目標	筋の起始・停止を図等で確実に覚え、筋の作用による骨片転位を理解する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	①わからない事はできるだけその時に質問する。②挙手による質問を積極的に行う。 ③グループでは積極的に参加する。
11. 教科書	柔道整復学・理論編（南江堂）
12. 副読本	①柔道整復学・実技編（南江堂） ②標準整形外科学（医学書院）
13. 推薦参考図書	身体運動の機能解剖（医道の日本社）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	鎖骨骨折	解剖学・発生機序・症状
2	〃	合併症・整復法・固定法・固定期間
3	〃	後療法・後遺症
4	肩甲骨骨折	解剖学・分類・概説
5	〃	症状・治療法
6	上腕骨近位端部骨折	解剖学・分類 骨頭骨折
7	確認テストのまとめ・復習	まとめ
8	確認テスト	試験・解説
9	上腕骨近位端部骨折	解剖頸骨折・外科頸骨折
10	〃	外科頸骨折
11	〃	大結節単独骨折・小結節単独骨折・近位骨端線離開
12	上腕骨骨幹部骨折	解剖学・概説・発生機序
13	〃	症状 三角筋付着部より近位での骨折・遠位での骨折
14	〃	後遺症・骨癒合・予後
15	統合教育科目Ⅶ	まとめ
16	統合教育科目Ⅶ	練習問題で復習
17		後期期末試験
18	統合教育科目Ⅶ	試験・解説
19	統合教育科目Ⅶ	練習問題
20	統合教育科目Ⅶ	〃

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	座学
8. 授業の目標	前腕骨骨折から指骨骨折までの骨折病態を理解し基礎的知識と臨床判断力を養う。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	全出席を目標とし、意欲を以て望むこと。
11. 教科書	柔道整復学・理論編 改訂第7版
12. 副読本	柔道整復学・実技書
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	F. 前腕近位部の骨折	1. 橈骨近位端部骨折
2	F. 前腕近位部の骨折	2. 肘頭骨折 1. 橈骨骨幹部骨折
3	G. 前腕骨骨幹部骨折	1. 橈骨骨幹部骨折 2. ガレアジ骨折（逆モンテギア骨折）
4	G. 前腕骨骨幹部骨折	3. 尺骨骨幹部骨折 4. モンテギア骨折
5	G. 前腕骨骨幹部骨折	5. 橈・尺両骨骨幹部骨折
6	H. 前腕骨遠位端部骨折	1. 橈骨遠位端部骨折
7	H. 前腕骨遠位端部骨折	1. 橈骨遠位端部骨折
8	試験	確認テスト
9	I. 手根骨部の骨折	1. 舟状骨骨折
10	I. 手根骨部の骨折	2. 三角骨 3. 有鉤骨骨折 4. その他の手根骨骨折
11	J. 中手骨部の骨折	1. 中手骨骨頭骨折 2. 中手骨頸部骨折 3. 中手骨骨幹部骨折
12	J. 中手骨部の骨折	4. 第1中手骨基部骨折 5. 第5中手骨基部骨折
13	K. 指骨の骨折	1. 基節骨骨折 2. 中節骨骨折
14	K. 指骨の骨折	3. 末節骨骨折 4. マレットフィンガー
15	統合教育科目Ⅶ	復習
16	統合教育科目Ⅶ	復習
17		後期期末試験
18	統合教育科目Ⅶ	復習
19	統合教育科目Ⅶ	復習
20	統合教育科目Ⅶ	復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木 英明
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	上肢の脱臼について文章、単語の暗記ではなく、イメージできるように理解する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯・スマートフォン・タブレットの無断使用禁止
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	柔道整復学・実技編
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	A. 鎖骨の脱臼 胸鎖関節脱臼 □胸鎖関節前方脱臼 肩鎖関節脱臼 □肩鎖関節上方脱臼
2	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	A. 鎖骨の脱臼 肩鎖関節脱臼 □肩鎖関節上方脱臼
3	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	A. 鎖骨の脱臼 肩鎖関節脱臼 B. 肩関節脱臼 □肩関節前方脱臼
4	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	B. 肩関節脱臼 □肩関節前方脱臼
5	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	B. 肩関節脱臼 □反復性肩関節脱臼
6	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	B. 肩関節脱臼 □反復性肩関節脱臼 □肩関節後方脱臼 □肩関節下方脱臼 □肩関節上方脱臼
7		復習
8		確認試験および解説
9	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	C. 肘関節の脱臼 □前腕両骨脱臼
10	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	C. 肘関節の脱臼 □前腕両骨脱臼 □橈骨頭単独脱臼 □肘内障
11	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	D. 手関節部の脱臼 □遠位橈尺関節脱臼 □橈骨手根関節脱臼 □月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼
12	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	E. 手根中手関節の脱臼 □手根中手（CM）関節脱臼
13	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	F. 中手指節関節、指節間関節の脱臼 □第1指中手指節（MP）関節脱臼 □第1指以外の中手指節（MP）関節脱臼
14	第Ⅲ章各論 2. 脱臼 2-2. 上肢の脱臼	F. 中手指節関節、指節間関節の脱臼 □近位指節間（PIP）関節脱臼 □遠位指節間（DIP）関節脱臼
15	統合教育科目Ⅶ	復習
16	統合教育科目Ⅶ	復習
17	統合教育科目Ⅶ	復習
18		後期期末試験
19	統合教育科目Ⅶ	後期期末試験解説
20	統合教育科目Ⅶ	復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	伊東 秀高
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	上肢軟部組織の構造と損傷を理解する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯・スマートフォン・タブレットの無断使用禁止
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	柔道整復学・実技編
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	肩関節部の軟部組織損傷	肩関節部の解剖と機能、筋・腱の損傷
2	肩関節部の軟部組織損傷	肩関節部の解剖と機能、筋・腱の損傷
3	肩関節部の軟部組織損傷	スポーツ損傷
4	肩関節部の軟部組織損傷	スポーツ損傷
5	肩関節部の軟部組織損傷	不安定症、末梢神経障害、その他の疾患
6	上腕部の軟部組織損傷	上腕部の解剖と機能
7		※ 総復習
8	前期確認テスト	前期確認テストおよび解説
9	上腕部の軟部組織損傷	橈骨神経損傷、尺骨神経損傷
10	肘関節部の軟部組織損傷	肘関節部の解剖と機能、靱帯の損傷、野球肘
11	肘関節部の軟部組織損傷	野球肘、テニス肘、その他の疾患
12	肘関節部の軟部組織損傷	野球肘、テニス肘、その他の疾患
13	前腕部の軟部組織損傷	前腕部の解剖と機能、前腕コンパートメント症候群
14	前腕部の軟部組織損傷	腱交差症候群、末梢神経損傷
15	統合教育科目Ⅷ	手関節部の解剖と機能、三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病
16	統合教育科目Ⅷ	末梢神経障害、キーンベック病、マーデルング変形
17	統合教育科目Ⅷ	※ 総復習
18	前期期末試験	前期期末試験
19	統合教育科目Ⅷ	※ 総復習
20	統合教育科目Ⅷ	※ 総復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅴ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として14年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	田村 努
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	下肢の骨折の理解度を高める。
9. 成績評価	期末試験の結果に平常点(確認テスト、小テスト、出席、授業態度等)を考慮し評価。
10. 受講上の注意	わからない事は質問し、わからないままにしない事。
11. 教科書	柔道整復学・理論編（南江堂）
12. 副読本	柔道整復学・実技編（南江堂）
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	ガイダンス・骨盤骨骨折	○解剖学・分類・発生機序・症状・治療法について
2	骨盤骨骨折	〃
3	骨盤骨骨折	〃
4	大腿骨骨折	〃
5	大腿骨骨折	〃
6	大腿骨骨折	〃
7	大腿骨骨折	〃
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9	膝蓋骨骨折	○解剖学・分類・発生機序・症状・治療法について
10	下腿骨骨折	〃
11	下腿骨骨折	〃
12	下腿骨骨折	〃
13	足・足趾骨折	〃
14	足・足趾骨折	〃
15	統合教育科目Ⅷ	試験範囲のまとめ
16	統合教育科目Ⅷ	試験範囲のまとめ
17	前期期末試験	前期期末試験
18	統合教育科目Ⅷ	復習
19	統合教育科目Ⅷ	復習
20	統合教育科目Ⅷ	復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅵ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	金子 和央
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	下肢の脱臼および軟部組織損傷について理解する。また、国家試験出題基準に準じて主重要なポイントを理解する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、許可なく携帯電話等の電子機器の操作は厳禁。
11. 教科書	柔道整復学・理論編 改訂第6版
12. 副読本	柔道整復学・実技編 改訂第2版、解剖学 改訂第2版
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	授業に関する説明	
2	股関節脱臼	
3	膝蓋骨脱臼	
4	膝関節脱臼、足部の脱臼	
5	股関節軟損傷①	鼠径部痛症候群から梨状筋症候群まで
6	股関節軟損傷②	股関節外転位拘縮、内転位拘縮、屈曲位拘縮、ペルテス病
7		前期確認試験の説明及び復習
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9	股関節軟損傷③	単純性股関節炎、大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症、変形性股関節症
10	大腿部軟損傷	大腿部打撲、大腿四頭筋、ハムストリングスの肉離れ
11	膝関節軟損①	半月板損傷、側副靱帯損傷
12	膝関節軟損②	十字靱帯損傷、発育期の膝関節障害
13	膝関節軟損③	腸脛靱帯炎から伏在神経麻痺
14	膝関節軟損④	離断性骨軟骨炎、変形性膝関節症、注意する疾患
15	統合教育科目Ⅷ	期末試験の説明および復習
16	前期期末試験	前期期末試験
17	統合教育科目Ⅷ	下腿部軟損 アキレス腱断裂からコンパートメント症候群
18	統合教育科目Ⅷ	足関節部軟損傷① 足関節捻挫
19	統合教育科目Ⅷ	足関節部軟損傷② 足関節捻挫の類症鑑別から三角骨障害
20	統合教育科目Ⅷ	足関節部軟損傷③ 扁平足障害、足・足趾部軟損傷

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅶ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として14年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	白江 誠
7. 授業形式	座学
8. 授業の目標	柔道整復術の対象疾患に対する診察から治療までの理論の修得
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	遅刻、欠席をしない。積極的に授業に参加する。私語、居眠り厳禁
11. 教科書	柔道整復学理論編 公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修（南江堂）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		講義説明、頭部、顔面部の解剖と機能、頭蓋骨骨折
2		頭蓋骨骨折、顔面頭蓋骨折
3		顔面頭蓋骨折
4		頸椎の解剖と機能、頸椎の骨折
5		頸椎の骨折、顎関節脱臼
6		顎関節脱臼、頸椎脱臼、
7		復習
8		後期確認テスト
9		顎関節症、顎関節捻挫 頭部・顔面部打撲
10		むちうち損傷、胸郭出口症候群、寝違い
11		胸・背部の解剖と機能、胸部の骨折
12		胸部の骨折、胸椎の骨折
13		胸椎の脱臼、胸・背部の軟部組織損傷、
14		腰部・仙骨部の解剖と機能、腰部の骨折
15	統合教育科目Ⅷ	復習
16	統合教育科目Ⅷ	復習
17		後期期末試験
18	統合教育科目Ⅷ	試験解説
19	統合教育科目Ⅷ	まとめ
20	統合教育科目Ⅷ	まとめ

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅷ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	阿部 誠紀
7. 授業形式	資料活用(4択問題)+解説
8. 授業の目標	基礎知識の確立
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠り禁止、携帯等の電子機器の使用は厳禁 ※次年度を見据えて臨むこと
11. 教科書	柔道整復学 理論編・柔道整復学 実技編
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		柔整 総復習（4択問題）
2		柔整 総復習（4択問題）
3		柔整 総復習（4択問題）
4		柔整 総復習（4択問題）
5		柔整 総復習（4択問題）
6		確認テスト
7		柔整 総復習（4択問題）
8		柔整 総復習（4択問題）
9		柔整 総復習（4択問題）
10		柔整 総復習（4択問題）
11		柔整 総復習（4択問題）
12		柔整 総復習（4択問題）
13		柔整 総復習（4択問題）
14		柔整 総復習（4択問題）
15		後期期末試験
16	統合教育科目Ⅷ	総合試験
17	統合教育科目Ⅷ	総合試験
18	統合教育科目Ⅷ	振り返り
19	統合教育科目Ⅷ	振り返り
20	統合教育科目Ⅷ	振り返り

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅸ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として21年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	竹沢 潤
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	診察、後療法、指導管理、外傷予防について学び、実践する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯電話、他の科目の勉強
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	エビデンスから身につける物理療法・勉強会資料
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	診察	診察のしかたについて学習する。
2	後療法	後療法の種類を学習する。
3	後療法	手技療法を学習する。
4	後療法	運動療法を学習する。
5	後療法	物理療法の分類を学習する。
6	後療法	電気療法を学習する。
7	後療法	確認テスト
8	後療法	温熱療法を学習する。
9	後療法	温熱療法を学習する。
10	後療法	温熱療法を学習する。
11	後療法	伊藤超短波実技
12	後療法	光線・寒冷療法を学習する。
13	後療法	牽引・間欠的圧迫法を学習する。
14	指導管理	指導管理について学習する。
15	統合教育科目Ⅷ	外傷予防について学習する。
16	統合教育科目Ⅷ	復習
17		後期期末試験
18	統合教育科目Ⅷ	期末試験解答解説
19	統合教育科目Ⅷ	手技療法を学習する。
20	統合教育科目Ⅷ	復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅶ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として8年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務、接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	齊藤 慎吾、後藤 陽正、鈴木 英明
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	柔道整復理論の知識の向上を図る
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	柔道整復学・実技編、標準整形外科学
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼のまとめ
2	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼のまとめ
3	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼のまとめ
4	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼の試験対策
5	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼の試験対策
6	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼の試験対策
7	各損傷のまとめ	期末試験解説
8	各損傷のまとめ	期末試験解説
9	各損傷のまとめ	期末試験解説
10	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼の総復習
11	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼の総復習
12	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼の総復習
13	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼の総復習
14	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼の総復習
15	各損傷のまとめ	上肢骨折・脱臼の総復習

2026年度 講義計画書（通年）

1．科目名	統合教育科目Ⅷ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務、接骨院で柔道整復師として14年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務、接骨院で柔道整復師として14年勤務、接骨院で柔道整復師として6年勤務、接骨院で柔道整復師として21年勤務）
2．科目分類	専門分野
3．対象学科	柔整科 1部
4．対象学年・対象学期	第2学年・通年
5．単位数	2単位
6．担当講師	伊東 秀高、田村 努、金子 和央、白江 誠、阿部 誠紀、竹沢 潤
7．授業形式	講義形式
8．授業の目標	各科目のまとめとして包括的に学習し更なる知識の向上を図る
9．成績評価	後期試験にて評価する。
10．受講上の注意	私語、居眠り、無断の電子機器操作厳禁
11．教科書	柔道整復学・理論編 社団法人柔道整復学校協会・教科書委員会編集（南江堂）
12．副読本	柔道整復学・実技編（南江堂）、標準整形外科学（医学書院）、解剖学（南江堂）
13．推薦参考図書	分冊解剖学アトラス（東京分光堂本郷）・身体運動の機能解剖学（医道の日本社）

14．講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
4月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
5月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
6月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
7月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
8月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
9月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
10月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
11月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
12月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
1月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
2月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習 後期試験
3月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習

2026年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅸ①※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・通年
5. 単位数	6単位（統合教育科目Ⅸ①②③④⑤⑥）
6. 担当講師	鈴木 英明
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	柔道整復術の対象疾患に対する診察から治療までの知識の修得
9. 成績評価	後期定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	遅刻、無断欠席をしない。
11. 教科書	柔道整復学理論編（南江堂）、柔道整復学実技編（南江堂）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	上肢骨折の保存療法、柔道整復学上肢・体幹編、下肢・総論編（医歯薬出版）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
2		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
3		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
4		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
5	模擬試験	模擬試験
6		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
7		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
8		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
9		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
10		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
11		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
12		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
13		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
14		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
15		柔道整復学の練習問題（解答と解説およびディスカッション）
16	振替授業	
17	振替授業	

2026年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅸ②※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務・介護施設で柔道整復師として2年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・通年
5. 単位数	6単位（統合教育科目Ⅸ①②③④⑤⑥）
6. 担当講師	三瓶 隆貴
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	1・2年生での履修範囲を確実なものにして、国家試験で戦える能力を身につける。
9. 成績評価	後期定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	集中して1回の講義で必ず1つ以上のことを確実に覚えることを目標に取り組む。
11. 教科書	『解剖学』 公益財団法人 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版 『生理学』 公益財団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	ネッター解剖学アトラス

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		各分野におけるまとめと復習
2		各分野におけるまとめと復習
3		各分野におけるまとめと復習
4		各分野におけるまとめと復習
5		各分野におけるまとめと復習
6		各分野におけるまとめと復習
7		各分野におけるまとめと復習
8		各分野におけるまとめと復習
9		各分野におけるまとめと復習
10		各分野におけるまとめと復習
11		各分野におけるまとめと復習
12		各分野におけるまとめと復習
13	模擬試験	模擬試験
14		各分野におけるまとめと復習
15		各分野におけるまとめと復習
16	振返授業	

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅸ③※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	6単位（統合教育科目Ⅸ①②③④⑤⑥）
6. 担当講師	金子 和央
7. 授業形式	必修範囲(柔道整復学)の問題演習
8. 授業の目標	必修範囲の知識を確立し、必修問題の正答率を向上させる。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	集中して受講する事。許可なしに携帯電話やタブレット等の機器の使用禁止。
11. 教科書	柔道整復学 実技編、理論編（南江堂）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	標準整形外科学（医学書院）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		合同模試③
2		合同模試③
3	問題演習	総復習
4		後期期末試験
5	必修範囲まとめ	骨折範囲のノート作成
6	問題演習	骨折範囲の問題演習
7	必修範囲まとめ	脱臼範囲のノート作成
8	問題演習	脱臼範囲の問題演習
9	必修範囲まとめ	軟部組織損傷範囲のノート作成
10		合同模試④
11		合同模試④
12	問題演習	軟部組織損傷範囲の問題演習
13	問題演習	徒手検査法、包帯固定学の範囲
14	問題演習	総復習
15		校内模試⑤

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅸ④※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務・介護施設で柔道整復師として2年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	6単位（統合教育科目Ⅸ①②③④⑤⑥）
6. 担当講師	三瓶 隆貴
7. 授業形式	講義形式、練習問題および解説
8. 授業の目標	練習問題を解きながら、国家試験で戦える学力を身に着ける。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語厳禁
11. 教科書	解剖学、柔道整復学・理論編
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	ネッター

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		練習問題、解説、見直し
2		合同模試③
3		練習問題、解説、見直し
4		練習問題、解説、見直し
5		練習問題、解説、見直し
6		後期期末試験
7		練習問題、解説、見直し
8		練習問題、解説、見直し
9		キャリア講座
10		練習問題、解説、見直し
11		練習問題、解説、見直し
12		練習問題、解説、見直し
13		練習問題、解説、見直し
14		練習問題、解説、見直し
15		練習問題、解説、見直し

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅸ⑤※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	6単位（統合教育科目Ⅸ①②③④⑤⑥）
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	演習問題を解き、間違い直しを行う。
8. 授業の目標	柔道整復師国家試験必修問題の理解を深め、知識の整理を目的とする
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	内容が広範囲に及ぶため、使用教科書を毎回、必ず持参すること。
11. 教科書	①関係法規、②社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、柔道整復学（③理論編・④実技編）、⑤包帯固定学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		校内模試③
2		校内模試③
3		校内模試③
4	必修問題演習	問題演習と解説・見直し
5	必修問題演習	問題演習と解説・見直し
6		後期期末試験
7	必修問題演習	問題演習と解説・見直し
8	必修問題演習	問題演習と解説・見直し
9	必修問題演習	問題演習と解説・見直し
10	必修問題演習	問題演習と解説・見直し
11		合同模試④
12	必修問題演習	問題演習と解説・見直し
13	必修問題演習	問題演習と解説・見直し
14	必修問題演習	問題演習と解説・見直し
15	必修問題演習	問題演習と解説・見直し

2026年度 講義計画書（通年）

1．科目名	統合教育科目Ⅸ⑥※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務・介護施設で柔道整復師として2年勤務）
2．科目分類	専門分野
3．対象学科	柔整科 1部
4．対象学年・対象学期	第3学年・通年
5．単位数	6単位（統合教育科目Ⅸ①②③④⑤⑥）
6．担当講師	鈴木 英明、後藤 陽正、金子 和央、三瓶 隆貴
7．授業形式	問題演習
8．授業の目標	全履修範囲の復習を目的とした模擬試験を実施し、総合力を養う。
9．成績評価	後期定期試験の結果で評価する。
10．受講上の注意	欠席厳禁。積極的に取り組むこと。
11．教科書	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、解剖学、生理学、運動学、病理学、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学 リハビリテーション医学、外科学、整形外科学、柔整理論、柔整実技、
12．副読本	なし
13．推薦参考図書	なし

14．講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	模擬試験	合同模試①
2	模擬試験	合同模試①
3	模擬試験	合同模試①
4	模擬試験	校内模試②
5	模擬試験	校内模試②
6	模擬試験	校内模試②
7	模擬試験	校内模試③
8	模擬試験	校内模試③
9	模擬試験	校内模試③
10	模擬試験	合同模試③
11	模擬試験	合同模試③
12	模擬試験	合同模試③
13	模擬試験	合同模試④
14	模擬試験	合同模試④
15	模擬試験	合同模試④

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として14年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	田村 努
7. 授業形式	講義、実技
8. 授業の目標	アスレチックテーピングの基礎(肩・肘・膝・足部)を修得する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯電話の使用厳禁。
11. 教科書	スポーツテーピング
12. 副読本	柔道整復学・実技編、包帯固定学
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	テーピングの基本	オリエンテーション
2	テーピングの基本	実技(基礎)
3	テーピング	実技(足関節)
4	テーピング	実技(足関節)
5	テーピング	実技(足関節)
6	テーピング	実技(足関節)
7	テーピング	実技(足関節)
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9	テーピング	実技(膝関節)
10	テーピング	実技(膝関節)
11	テーピング	実技(膝関節)
12	テーピング	実技(膝関節)
13	テーピング	実技(試験対策)
14	テーピング	実技(各種応用含む)
15	テーピング	実技(各種応用含む)
16	テーピング	実技(試験対策)
17	テーピング	実技(試験対策)
18	前期期末試験	前期期末試験
19	テーピング	実技(各種応用含む)
20	テーピング	実技(各種応用含む)

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	基礎実技Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	伊東 秀高
7. 授業形式	実技形式
8. 授業の目標	キネシオテープを使用するにあたり目的となる筋の走行を学ぶ
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	積極的に授業に参加し、知識と技術の向上に努める。
11. 教科書	配布プリント、解剖学の教科書
12. 副読本	運動学の教科書
13. 推薦参考図書	キネシオテーピング THE SPORTS、決定版キネシオテーピング

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	テーピング基礎	キネシオテーピングの基礎
2	上肢帯の筋	上肢帯の筋に対するキネシオテーピング
3	上肢帯の筋	上肢帯の筋に対するキネシオテーピング
4	上腕部の筋	上腕の筋に対するキネシオテーピング
5	上腕部の筋	上腕の筋に対するキネシオテーピング
6	前腕部の筋	前腕の筋に対するキネシオテーピング
7	前腕部の筋	前腕の筋に対するキネシオテーピング、復習
8		確認試験
9	下肢帯の筋	下肢帯に対するキネシオテーピング
10	大腿部の筋	大腿部の筋に対するキネシオテーピング
11	大腿部の筋	大腿部の筋に対するキネシオテーピング
12	下腿部の筋	下腿部の筋に対するキネシオテーピング
13	下腿部の筋	下腿部の筋に対するキネシオテーピング
14	体幹の筋	体幹部に対するキネシオテーピング
15	体幹の筋	体幹部に対するキネシオテーピング
16		復習
17		後期期末試験
18	応用テーピング	肩関節部に用いるテーピング
19	応用テーピング	膝関節部に用いるテーピング
20	応用テーピング	足関節部に用いるテーピング

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	阿部 誠紀
7. 授業形式	講義形式・実技形式
8. 授業の目標	基礎的な知識および技術の確立。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠りは禁止、携帯等電子機器の使用は厳禁、実技はケーシー着用
11. 教科書	【柔道整復学・理論編】南江堂、【解剖学】医歯薬出版株式会社
12. 副読本	無
13. 推薦参考図書	無

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション(教室)
2		体肢の骨について
3		プリント対応 ※予習
4		上肢・下肢の骨 名称
5		上肢・下肢の骨 名称
6		身体主要部位の触診（上肢・下肢）
7		身体主要部位の触診（上肢・下肢）
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9		身体主要部位の触診（上肢・下肢）
10		身体主要部位の触診（上肢・下肢）
11		四肢の長さ・太さの計測
12		四肢の長さ・太さの計測
13		関節可動域の計測法
14		関節可動域の計測法
15		関節可動域の計測法
16		試験前の復習、期末試験の説明
17	前期期末試験	前期期末試験
18		ストレッチングについて
19		姿勢評価について
20		姿勢評価について

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	基礎実技Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	阿部 誠紀
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	運動器系の機能・構造を理解し、徒手検査法についての理解と実技を習得する
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	ケーシー着用、私語や居眠り禁止、携帯等の電子機器の使用は厳禁
11. 教科書	柔道整復学 理論編・柔道整復学 実技編
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単元	概要
1		オリエンテーション〈徒手検査法について〉
2		上肢の徒手検査法
3		上肢の徒手検査法
4		上肢の徒手検査法
5		上肢の徒手検査法
6		上肢の徒手検査法
7		上肢の徒手検査法
8		後期確認テスト
9		下肢の徒手検査法
10		下肢の徒手検査法
11		下肢の徒手検査法
12		下肢の徒手検査法
13		下肢の徒手検査法
14		下肢の徒手検査法
15		体幹の徒手検査法
16		体幹の徒手検査法
17		復習
18		後期期末試験
19		その他の検査法
20		その他の検査法

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整実技Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として19年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	芦名 潤一
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	基本包帯法 包帯固定の修得
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語厳禁
11. 教科書	包帯固定学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		包帯および軟性材料の説明
2		巻軸包帯の説明 巻き方、巻き戻し方の基本
3		基本包帯法 環行帯 蛇行帯 螺旋帯の練習
4		折転帯の練習
5		折転帯の練習 小テスト
6		亀甲帯の練習
7	前期確認テスト	前期確認テスト
8		亀甲帯の練習 小テスト
9		肩 上行麦穂帯の練習
10		肩 上行麦穂帯の練習
11		肩 上行麦穂帯の練習 小テスト
12		肩 下行麦穂帯の練習
13		肩 下行麦穂帯の練習 小テスト
14		足関節の包帯固定の練習
15		足関節の包帯固定の練習
16		デゾー包帯の練習
17	前期期末試験	前期期末試験
18		デゾー包帯の練習
19		ヴェルポー、デゾー包帯、ジュール包帯の練習
20		ヴェルポー、デゾー包帯、ジュール包帯の練習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	基礎柔整実技Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として19年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	芦名 潤一
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	臨床で柔道整復師が行う固定の理解と取得
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語禁止
11. 教科書	包帯固定学 柔道整復学 実技編
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	固定材料の作製と固定	クラーメルシーネ作製（上肢用）
2	固定材料の作製と固定	クラーメルシーネ作製（上肢用）および固定
3	固定材料の作製と固定	クラーメルシーネ作製（上肢用）および固定
4	固定材料の作製と固定	クラーメルシーネ作製（上肢用）および固定
5	固定材料の作製と固定	クラーメルシーネ作製（下肢用）
6	固定材料の作製と固定	クラーメルシーネ作製（下肢用）および固定
7	固定材料の作製と固定	クラーメルシーネ作製（下肢用）および固定
8		確認テスト
9	固定材料の作製と固定	クラーメルシーネ作製（下肢用）および固定
10	固定材料の作製と固定	足部厚紙副子作製
11	固定材料の作製と固定	足部厚紙副子作製 および固定
12	固定材料の作製と固定	手指部アルミ副子作製 および固定
13	固定材料の作製と固定	手指部アルミ副子作製 および固定
14	キャスト材の固定	熱可塑性キャスト材 ギプス包帯についての説明
15	キャスト材について	熱可塑性キャスト材の固定
16	まとめ	試験対策
17		後期期末試験
18	キャスト材の固定	ギプス包帯の固定
19	キャスト材の固定	ギプス包帯の固定
20		まとめ

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整実技Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として34年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	刈屋 太郎
7. 授業形式	実技および講義
8. 授業の目標	臨床上重要な上肢骨折、脱臼、軟損の診察・整復法・固定法などを学ぶ。
9. 成績評価	確認テストと期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	実技における心構え、服装、身だしなみ、確認・定期試験成績、受講中の態度
11. 教科書	「柔道整復理論（理論編）」 「柔道整復理論（実技編）」
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	上肢骨折	鎖骨骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
2	上肢骨折	鎖骨骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
3	上肢骨折	上腕骨外科頸骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
4	上肢骨折	上腕骨外科頸骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
5	上肢骨折	上腕骨顆上骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
6	上肢骨折	上腕骨顆上骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
7	前期確認テスト	前期確認テスト
8		前期確認テストの解説
9	上肢骨折	コーレス骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
10	上肢骨折	コーレス骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
11	上肢骨折	手指部の骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
12	上肢骨折	手指部の骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
13	上肢脱臼	肩関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
14	上肢脱臼	肩関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
15	上肢脱臼	肩関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて③
16	まとめ	総復習
17	前期期末試験	前期期末試験
18	まとめ	総復習
19	まとめ	総復習
20	まとめ	総復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	基礎柔整実技Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木 英明
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	適切な診察と処置が行えるよう柔道整復術の習得度を向上させる。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	ケーシーを着用し、身だしなみを整え受講すること。
11. 教科書	柔道整復学（理論編・実技編）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	総論	柔道整復術の概要説明（診察、整復、固定について）
2	上肢（鎖骨）	鎖骨周囲の診察と処置Ⅰ（鎖骨骨折）※小児骨折や不全骨折の対応
3		鎖骨周囲の診察と処置Ⅱ（鎖骨骨折）※応急処置や三角巾の使い方
4		鎖骨周囲の診察と処置Ⅲ（肩鎖関節損傷）※包帯を用いた固定
5		確認テスト
6	上肢（肩部）	肩部周囲の診察と処置Ⅰ（肩関節脱臼）※様々な整復法のメリット・デメリット
7		肩部周囲の診察と処置Ⅱ（肩関節脱臼）※様々な固定法のメリット・デメリット
8		肩部周囲の診察と処置Ⅲ（肩腱板損傷）※治療と後療法
9	上肢（肘部）	肘部周囲の診察と処置Ⅰ（肘関節脱臼）※様々な整復法のメリット・デメリット
10		肘部周囲の診察と処置Ⅱ（肘関節脱臼）※様々な固定法のメリット・デメリット
11		肘部周囲の診察と処置Ⅲ（肘部軟部組織損傷）※治療と後療法
12	下肢（膝部）	膝部の診察と処置Ⅰ（MCL・MM・LCL・LM 損傷）※検査とテーピング固定方法
13		膝部の診察と処置Ⅱ（ACL・PCL 損傷）※検査とテーピング固定方法
14		膝部の診察と処置Ⅲ（軟部組織損傷）※治療と包帯副子固定方法
15		後期期末試験
16		総合試験
17		総合試験
18	下肢（足部）	足部の診察と処置Ⅰ（内返し捻挫）※テーピング固定法のメリット・デメリット
19		足部の診察と処置Ⅱ（内返し捻挫）※治療と包帯副子固定方法
20		足部の診察と処置Ⅲ（スポーツ障害）※テーピングのメリット・デメリット

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として14年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	田村 努
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	固定法の基礎および各種固定法の応用を修得する。
9. 成績評価	定期試験と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯電話操作厳禁。
11. 教科書	柔道整復学・理論編 包帯固定学
12. 副読本	柔道整復学・実技編
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	オリエンテーションおよび授業概要説明
2	柔道整復学・総論	固定法の基礎①
3	柔道整復学・総論	固定法の基礎②
4		外傷における処置(包帯の使用方法)
5	柔道整復学・総論	固定具の説明
6	柔道整復学・総論	固定具の種類
7		試験対策
8	前期確認テスト	前期確認テスト
9	包帯法	外傷における処置(三角巾の使用方法)
10	包帯法	外傷における処置(包帯固定の応用)①
11	包帯法	外傷における処置(包帯固定の応用)②
12	包帯法	外傷における処置(包帯固定の応用)③
13	包帯法	外傷における処置(包帯固定の応用)④
14	包帯法	外傷における処置(包帯固定の応用)⑤
15	包帯法	試験対策
16	前期期末試験	前期期末試験
17	包帯法	外傷における処置(包帯固定の応用)⑥
18	包帯法	外傷における処置(包帯固定の応用)⑦
19	包帯法	外傷における処置(包帯固定の応用)⑧
20	包帯法	外傷における処置(包帯固定の応用)⑨

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として8年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	齊藤 慎吾
7. 授業形式	基礎的な知識の確認を行いながら、実技を中心とする
8. 授業の目標	認定実技試験の合格と、卒業後の臨床に生かせるように基礎的な技術の習得。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	実技授業なので、ある程度の私語はやむを得ないが、節度をもった態度で望む。
11. 教科書	柔道整復学 理論編：実技編（南江堂）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	標準整形外科

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	はじめに	国家試験と認定実技試験について
2	①鎖骨定型的骨折	基礎知識と診察および整復・検査
3	②上腕骨外科頸骨折	〃
4	①②復習	〃
5	③コーレス骨折	〃
6	④肩関節烏口下脱臼	〃
7	③④復習	〃
8	A 鎖骨骨折	基礎知識と固定法
9	〃	〃
10	B 上腕骨骨幹部骨折	〃
11	〃	〃
12	C コーレス骨折	〃
13	〃	〃
14	A～C 復習	〃
15	〃	〃
16		前期期末試験
17		問題演習
18	D ボクサー骨折 E 第2指PIP背側脱臼	
19		問題演習
20	F 肋骨骨折	

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務、接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	金子 和央、鈴木 英明
7. 授業形式	実技授業
8. 授業の目標	主要な傷害に対する基礎的な診察や整復・固定ができる。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	余計な私語は慎む事。許可なく電子機器の操作をしない事。
11. 教科書	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	① 肩鎖関節上方脱臼	診察及び整復法①
2		診察及び整復法②
3		固定法（ロバート・ジョーンズ固定）
4	② 肩関節前方脱臼	固定法（局所副子・三角巾固定）
5	③ 肘関節後方脱臼	診察及び整復法①
6		診察及び整復法②
7		固定法（クラーメル副子・三角巾固定）
8	④ 肘内障	診察及び整復法
9	復 習	①～④復習
10	⑤ 肩腱板損傷	診察及び検査法①
11		診察及び検査法②
12	⑥ 上腕二頭筋長頭腱損傷	診察及び検査法①
13		診察及び検査法②
14	復 習	試験の説明および復習
15		前期期末試験
16	⑦ハムストリングス損傷（肉離れ）	診察及び検査法①
17	復 習	
18	⑧下腿三頭筋損傷（肉離れ）	診察及び検査法①
19	復 習	
20	⑨足関節外側靱帯損傷	診察及び検査法①

2026年度 講義計画書（後期）

1．科目名	応用実技Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務・介護施設で柔道整復師として2年勤務）
2．科目分類	専門分野
3．対象学科	柔整科 1部
4．対象学年・対象学期	第3学年・後期
5．単位数	1単位
6．担当講師	金子 和央、三瓶 隆貴
7．授業形式	実技形式
8．授業の目標	診察・診療業務の基礎的な知識及び技術を身につける。
9．成績評価	定期試験の結果で評価する。
10．受講上の注意	集中して受講する事。許可なしに携帯電話やタブレット等の機器の使用禁止。
11．教科書	柔道整復学 実技編、理論編（南江堂）
12．副読本	
13．推薦参考図書	標準整形外科学（医学書院）

14．講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	国家試験対策	柔整学演習
2	下腿三頭筋肉離れ	診察及び検査
3	足関節外側側副靱帯損傷	診察及び検査
4	国家試験対策	柔整学演習
5	足関節外側側副靱帯損傷	固定（バスケットウィーブ固定）
6		固定（エイト&ヒールロック固定）
7		10/18(土) 認定実技審査 予行
8	国家試験対策	柔整学演習
9	国家試験対策	柔整学演習
10	総復習	認定実技審査項目の総復習
11	国家試験対策	柔整学演習
12	国家試験対策	柔整学演習
13		後期期末試験
14	国家試験対策	総復習
15	国家試験対策	総復習
16	国家試験対策	総復習
17	国家試験対策	総復習
18	国家試験対策	総復習
19	国家試験対策	総復習
20	国家試験対策	総復習

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	画像評価実技Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木 孝行
7. 授業形式	超音波観察装置、PC、PCプロジェクターを適宜使用。パワーポイントのスライドにより講義を進め、超音波観察装置を使用して実技を行う。資料配付により、板書で伝え切れない部分を補うほか、重要事項を要約する。
8. 授業の目標	断層解剖学（筋骨格）における基礎知識の習得とエコー使用した正常画像の抽出を目指す。
9. 成績評価	確認テストと期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語厳禁・分からない事はその時に聞くこと。 実技を行う際には、ケーシー又はジャージを着用し実習を行える服装で受講すること。
11. 教科書	運動器の超音波（南山堂）
12. 副読本	解剖学（南江堂）
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	超音波の基礎知識	超音波画像診断の必要性について
2	超音波の基礎知識	超音波画像診断装置の使い方①
3	超音波の基礎知識	超音波画像診断装置の使い方②
4	超音波の基礎知識	生体内組織の観察①（皮膚）
5	超音波の基礎知識	生体内組織の観察②（皮下組織）
6	超音波の基礎知識	生体内組織の観察③（骨）
7	超音波の基礎知識	生体内組織の観察④（筋膜）
8	超音波の基礎知識	生体内組織の観察⑤（筋肉）
9		確認テスト
10	超音波の基礎知識	生体内組織の観察⑥（腱・靱帯）
11	超音波の基礎知識	生体内組織の観察⑦（血管）
12	超音波の基礎知識	生体内組織の観察⑧（組織境界部など）
13	上肢の観察	肩関節
14	上肢の観察	肘関節
15	下肢の観察	膝関節
16	下肢の観察	足関節
17	総合観察	前期期末試験
18		前期復習
19	自由観察	各部位の相対的観察
20	応用実技	症例検討など

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	画像評価実技Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	各種画像評価を説明し、各疾患のエコー観察の実技と画像の説明ができる。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	積極的に受講すること。教室、実技室双方で講義を行うことがあります。事前にTeamsにて案内をします。実技は実習着。下肢実技の場合はハーフパンツを持参すること。 また当番は授業前に職員室にて鍵とタオルを受け取り超音波機器とPCを接続完了させておくこと。
11. 教科書	運動器の超音波
12. 副読本	柔道整復学・理論編、解剖学、ネッター
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	上肢の画像評価実技1	手指・手関節周辺疾患のエコー評価1
2	上肢の画像評価実技2	手指・手関節周辺疾患のエコー評価2
3	上肢の画像評価実技3	手指・手関節周辺疾患のエコー評価3
4	上肢の画像評価実技4	肘関節周辺疾患のエコー評価1
5	上肢の画像評価実技5	肘関節周辺疾患のエコー評価2
6	上肢の画像評価実技6	肩関節周辺疾患のエコー評価1
7	前期確認テスト	前期確認テスト
8	上肢の画像評価実技7	肩関節周辺疾患のエコー評価2
9	上肢の画像評価実技8	肩関節周辺疾患のエコー評価3
10	下肢の画像評価実技1	足趾・足関節周辺疾患のエコー評価1
11	下肢の画像評価実技2	足趾・足関節周辺疾患のエコー評価2
12	下肢の画像評価実技3	足趾・足関節周辺疾患のエコー評価3
13	下肢の画像評価実技4	膝関節周辺・大腿部疾患のエコー評価1
14	下肢の画像評価実技5	膝関節周辺・大腿部疾患のエコー評価2
15	下肢の画像評価実技6	膝関節周辺・大腿部疾患のエコー評価3
16	前期期末試験	前期期末試験
17	体幹の画像評価実技	肋骨骨折、腰椎分離症のエコー評価
18	体幹の画像評価実技	肋骨骨折、腰椎分離症のエコー評価
19	各種画像検査 1	各種画像検査法の特徴 1
20	各種画像検査 2	各種画像検査法の特徴 2

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	総合実技Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として14年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	田村 努
7. 授業形式	実技形式
8. 授業の目標	臨床現場で実際に施せる固定材料の作成、包帯法、テーピング法の習得
9. 成績評価	定期試験と平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	実習着着用、スマートフォン等の電子機器操作厳禁、私語厳禁、準備物は事前に確認すること
11. 教科書	包帯固定学、スポーツテーピング、柔道整復実技 他
12. 副読本	解剖学 他
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	上肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
2	上肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
3	上肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
4	上肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
5	上肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
6	上肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
7	上肢の怪我と固定法	試験対策
8		試験
9	下肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
10	下肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
11	下肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
12	下肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
13	下肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
14	下肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
15	下肢の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
16	体幹の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
17		試験対策
18		後期期末試験
19	体幹の怪我と固定法	怪我の固定、テーピング法
20		復習

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	総合実技Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として10年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	安田 詩栞、川西 陽三
7. 授業形式	実技形式
8. 授業の目標	1、全人各部位の筋膜解剖を理解し、施術部位を正確に同定できる 2、FaSTインストルメントを安全・適切に扱い、主要部位に対する基本手技を実施できる
9. 成績評価	確認試験、期末試験の結果や授業態度、出席状況などの素行を考慮し評価する。
10. 受講上の注意	禁忌部位（皮膚疾患・骨折治療途中・血液凝固異常等）の有無を毎回確認すること ツールの取り扱いには十分注意し、破損・紛失の際は速やかに報告すること
11. 教科書	FaSTマニュアル
12. 副読本	Complete Anatomy (Degital 3D Anatomy Application) Elsevier
13. 推薦参考図書	Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて (Joseph E. Muscolino 原著, 医 歯薬出版株式会社)、Cmplete Anatomy (アプリ)

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		ガイダンス・FaSTとは
2		筋膜システム総論
3		大腿前面・膝周囲・大腿後面FaST手技
4		大腿外側面・内側股FaST手技
5		下腿前面・下腿後面・アキレス腱FaST手技
6		足関節・足背・足趾・足底FaST手技
7		股関節前面・側面・後面・殿部FaST手技
8	前期確認テスト	確認試験
9		下部腰部・仙腸関節FaST手技①
10		胸腰部・腰方形筋FaST手技②
11		頸背部座位・肩甲間部・僧帽筋FaST手技①
12		頸部側臥位・側頸部・斜角筋・仰臥位上部頸椎FaST手技②
13		肩甲部・肩関節FaST手技①
14		上腕・肘関節・前腕部FaST手技②
15		前腕・手関節・手部FaST手技
16		復習（To Be Anounced）FaST実技
17	前期期末試験	座学：筆記テスト（解剖学・理論・適応・禁忌） 実技：実技テスト（指定部位2箇所FaST実演）
18		腹圧テンセグリティによる動作 実演実習
19		統合実習①（上半身）・統合実習②（下半身）
20		テスト解説・総まとめ・臨床展望

2026年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	総合実技Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として8年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務・介護施設で柔道整復師として2年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	齊藤 慎吾、後藤 陽正、三瓶 隆貴
7. 授業形式	基礎的から応用までの実技を中心とする。
8. 授業の目標	認定実技試験合格に向けての実技と知識の向上。卒後の臨床に向けての応用力UP。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	実技なためある程度の私語はやむを得ないが、節度ある態度で授業に望む。
11. 教科書	柔道整復学（理論編・実技編）南江堂
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	標準整形外科

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	まとめ	ボクサー骨折固定法・第2指PIP関節脱臼固定・下腿骨骨折固定・アキレス腱断裂固定
2	まとめ	全範囲
3	国家試験対策	問題演習と解説・見直し
4	国家試験対策	問題演習と解説・見直し
5	国家試験対策	問題演習と解説・見直し
6		10/18(土) 認定実技審査 予行
7		診察および整復法・検査法
8	国家試験対策	問題演習と解説・見直し
9		固定法
10	国家試験対策	問題演習と解説・見直し
11	まとめ	必修範囲
12		後期定期試験
13	骨折上肢	座学にて復習 小テスト → 解説
14	〃	〃
15	骨折下肢	座学にて復習 小テスト → 解説
16	〃	〃
17	脱臼上肢	座学にて復習 小テスト → 解説
18	〃	〃
19	脱臼下肢	座学にて復習 小テスト → 解説
20	〃	〃

2026年度 講義計画書（通年）

1．科目名	臨床実習Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として10年勤務、接骨院で柔道整復師として14年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務・介護施設で柔道整復師として2年勤務）
2．科目分類	専門分野
3．対象学科	柔整科 1部
4．対象学年・対象学期	第1学年・通年
5．単位数	1単位
6．担当講師	安田 詩栞、臨床実習指導者、田村 努、三瓶 隆貴
7．授業形式	実習
8．授業の目標	接骨院実習を通して、実際の業務内容を学ぶ
9．成績評価	毎回の評価シートをもとに評価する。
10．受講上の注意	実習着着用、スマートフォン等の電子機器操作厳禁、私語厳禁、準備物は事前確認
11．教科書	必要に応じて持参
12．副読本	
13．推薦参考図書	

14．講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	実習における概要と注意事項
2	接骨院業務実習	接骨院業務実習
3	接骨院業務実習	接骨院業務実習
4	接骨院業務実習	接骨院業務実習
5	接骨院業務実習	接骨院業務実習
6	接骨院業務実習	接骨院業務実習
7	中間評価	中間評価
8	接骨院業務実習	接骨院業務実習
9	接骨院業務実習	接骨院業務実習
10	接骨院業務実習	接骨院業務実習
11	オリエンテーション	次年度臨床実習に向けて①
12	オリエンテーション	次年度臨床実習に向けて②
13	接骨院業務実習	接骨院業務実習
14	接骨院業務実習	接骨院業務実習
15	最終評価	最終評価

2026年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	臨床実習Ⅱ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	実習先(施術所)の臨床実習指導者、実習調整者(阿部・後藤)
7. 授業形式	実習
8. 授業の目標	接骨院実習を通して、実際の診療業務内容を学ぶ
9. 成績評価	毎回の評価シートをもとに評価する。
10. 受講上の注意	実習着着用、スマートフォン等の電子機器操作厳禁、私語厳禁、準備物は事前確認
11. 教科書	なし
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	なし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		臨床実習Ⅱ 事前オリエンテーション
2	校外臨床実習	接骨院業務全般
3	校外臨床実習	接骨院業務全般
4	校外臨床実習	接骨院業務全般
5	校外臨床実習	接骨院業務全般
6	校外臨床実習	接骨院業務全般
7	校外臨床実習	接骨院業務全般
8		臨床実習Ⅱ 事後オリエンテーション

2026年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	臨床実習Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（介護施設で柔道整復師として10年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	介護実習：布施 健太郎、実習先(施術所)の臨床実習指導者、実習調整者(阿部・後藤)
7. 授業形式	実習
8. 授業の目標	接骨院実習、介護施設実習を通して、実際の現場実習を学ぶ
9. 成績評価	実習態度および評価試験などにて評価する
10. 受講上の注意	実習着着用、スマートフォン等の電子機器操作厳禁、私語厳禁、準備物は事前確認
11. 教科書	なし
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	なし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		介護実習オリエンテーション
2	附属施設介護実習	介護実習
3	附属施設介護実習	介護実習
4		臨床実習Ⅲ 事前オリエンテーション
5	校外臨床実習	接骨院業務全般
6	校外臨床実習	接骨院業務全般
7	校外臨床実習	接骨院業務全般
8	校外臨床実習	接骨院業務全般
9	校外臨床実習	接骨院業務全般
10	校外臨床実習	接骨院業務全般
11		臨床実習Ⅲ 事後オリエンテーション

2026年度 講義計画書（前期）

1．科目名	臨床実習Ⅳ
2．科目分類	専門分野
3．対象学科	柔整科 1部
4．対象学年・対象学期	第3学年・前期
5．単位数	1単位
6．担当講師	柔整科専任教員、臨床実習指導者
7．授業形式	実技形式
8．授業の目標	臨床実習施設(施術所)で接骨院業務を体験し、基本的な診療補助ができる。
9．成績評価	受講態度、評価試験などにて評価する
10．受講上の注意	実習中のスマートフォン操作、SNS等へのアップロード禁止 私語、身勝手な行動禁止
11．教科書	
12．副読本	
13．推薦参考図書	

14．講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		各臨床実習施術所において45時間以上実施

2026年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	職業教育Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として14年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	田村 努他
7. 授業形式	座学および各種活動
8. 授業の目標	医療人としての資質向上と医療従事者として重要な要素となる他者との連携を学ぶ
9. 成績評価	受講態度および出席状況にて評価する
10. 受講上の注意	積極的に活動に参加し、関係性の構築を図る。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		新入生研修会
2		新入生研修会
3		新入生研修会
4		新入生研修会
5		新入生研修会
6		新入生研修会
7		キャリア教育
8		職業講話
9		キャリア教育
10		校内学術論文大会
11		校内学術論文大会
12		キャリア教育

2026年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	職業教育Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	阿部・後藤・その他
7. 授業形式	座学および実技
8. 授業の目標	柔道整復の業を理解し、臨床研究ならびに各種実習を通し、人の体の仕組みを理解し、柔道整復師に必要な知識を習得する。
9. 成績評価	出席状況、受講態度などを考慮し評価する。
10. 受講上の注意	積極的に授業に参加し知識の向上を図る。
11. 教科書	なし
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	なし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	概 要
2	基礎学力テスト	履修範囲復習
3	臨床研究	学術論文大会
4	臨床研究	学術論文大会
5	臨床研究	解剖見学実習
6	臨床研究	解剖見学実習
7	校内柔道大会	校内柔道大会
8	校内柔道大会	校内柔道大会
9	第1回平成統一テスト	4択問題(解剖・生理・柔理)
10	第2回平成統一テスト	4択問題(解剖・生理・柔理)
11	職業教育①	海外研修について
12	職業教育②	卒業論文について
13	職業教育③	解剖見学実習の説、卒論テーマ決定
14	職業教育④	卒業論文の進行状況確認①
15	職業教育⑤	卒業論文の進行状況確認②
16	職業教育⑥	卒業論文の提出

2026年度 講義計画書（前期）

1．科目名	臨床研修※実務経験のある教員の授業科目（接骨院で柔道整復師として6年勤務、接骨院で柔道整復師として3年勤務、接骨院で柔道整復師として6年勤務）
2．科目分類	応用分野
3．対象学科	柔整科 1部
4．対象学年・対象学期	第3学年 前期
5．単位数	1単位
6．担当講師	鈴木 英明、田村 努、阿部 誠紀 他
7．授業形式	海外研修および解剖学実習を通じ、人体の仕組みを理解し、説明できる。また、人体構造が如何に柔道整復術と密接な関係があるかのかを理解し体験・体感する。
8．授業の目標	講義、実習および評価試験
9．成績評価	講義、実習および評価試験
10．受講上の注意	積極的に授業に参加し知識の向上を図る。
11．教科書	ネッター解剖学アトラス
12．副読本	解剖学
13．推薦参考図書	

14．講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	開講式・解剖学実習①	①胸・肩・上肢
2	解剖学実習②	②肘・前腕
3	解剖学実習③	③腕神経叢・手
4	解剖学実習④	④頸部・背部・腰部
5	解剖学実習⑤	⑤臀部・大腿部
6	解剖学実習⑥	⑥膝・下腿
7	解剖学実習⑦	⑦足部
8	解剖学実習⑧	⑧腹部
9	解剖学実習⑨	⑨研究解剖
10	評価試験・閉講式	評価試験